

付篇

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

横山 成己

1. 調査の経緯

吉田遺跡は、山口市に所在する国立大学法人山口大学吉田構内敷地全域を覆う埋蔵文化財包蔵地である。遺跡地では昭和初期より土器や石器などが採取されており、遺物散布地としては知られていたが、学術的な発掘調査が行われたのは、山口大学がこの吉田の地へ統合移転を開始して間もなくの昭和41年を待つことになる。この年の6月、構内循環道の工事中、弥生時代の遺物を多量に含む遺物包含層に掘り当たり、当時本学の教育学部教授であった小野忠熙氏（現山口大学名誉教授）が調査の依頼を受けることとなった。この地点（吉田第Ⅰ地区A区）は現在の総合図書館北側の構内循環道とそれに沿う排水路に該当すると考えられるが、当時の状況は翌年7月に結成された吉田遺跡調査団によって作成された調査略報告『山口市山口大学構内吉田遺跡調査概報』^{註3}に詳しい。報告によると、6月25日に予察調査が、7月7日から20日まで本発掘調査が実施されたようである。また同時に構内の分布調査やボーリング調査、遺構の確認調査が実施され、その結果吉田遺跡は調査の順序と遺跡の性格、立地状況から第Ⅰ地区から第Ⅴ地区までの5地区に分割されることとなった。今回報告する第Ⅱ地区は、農学部の東に広がる洪積台地の果樹園から山口大学動物医療センター^{註4}、榎野寮（女子学生寮）に至る間の約30,000㎡の範囲に設定されている。

2. 調査の経過（図54、表8）

現在山口大学埋蔵文化財資料館には、第Ⅱ地区の調査に関する調査記録として77枚の現地調査図面が残されている（表8参照）。写真記録としては、35mm白黒フィルム36枚撮り2本分が発見されている。遺物としては、収納コンテナ（35cm×50cm×30cm）1箱分の資料が収蔵されている。

まず第Ⅱ地区の調査地点であるが、表8資料1「吉田遺跡第Ⅱ地区平板測量図」から考証を行う。この図には、山口大学の南側に隣接して走る市道神郷1号線が記入されており、図の北東部には現在の動物医療センター建設に伴う調査範囲と推定される区画が示されている。調査時以降市道は数次にわたる拡幅等の工事が行われており、動物医療センター調査区も現状建物とは平面積において大きく異なるが、資料1に現在の都市計画図を投影することで大まかな調査地点は推定可能である（図54）。この図により、南西側に図示された調査区を第Ⅱ地区第1調査区、北東に図示された調査区を第Ⅱ地区第2調査区と命名することにする。

表8 吉田遺跡第Ⅱ地区現存調査記録図一覧

資料番号	資料名	スケール	記録者名	記録作成年月日	筆者備考
1	吉田遺跡第Ⅱ地区平板測量図(1枚)	1/500	藤田・武居・添田・小西	昭和41年8月8日	第1・第2両区の位置関係が図示
2	第Ⅱ地区第1調査区平板測量図(1枚)	1/50	不明	昭和41年8月	第1調査区試掘時の遺構検出図か
3	第Ⅱ地区第1調査区平板測量図(1枚)	1/50	永富・添田・武居 斎藤・守友	昭和41年12月2日～7日	第1調査区本調査時の遺構平面図
4	第Ⅱ地区第1調査区溝状遺構平面図(1枚)	1/10	佐々木・田中・坂井	昭和41年12月11日	
5	第Ⅱ地区第1調査区遺構平面図・断面図(71枚)	不同	複数人で作成	不明	遺構別のスケッチ的な図に幅・深さ等の数値と出土遺物等が記載
6	第Ⅱ地区第1調査区断面図(1枚)	1/10	嶋崎・武居	12月25日	調査区の横断面図だが図の基点が不明
7	第Ⅱ地区第2調査区平板測量図(1枚)	1/50	不明	昭和41年8月9日～11日	第2調査区の包含層検出図

次に調査期間を確認しよう。調査日誌等の文字資料が全く残されていないため、現地調査図面に記された日付から推測するより他に方法はない。表8の各資料で記録作製年月日が記載されているものを見ると、昭和41年8月作製のものと同年12月作製のものとに大別される。8月作製のものは第1・第2両調査区の平板測量図であり、資料2には第1調査区で検出された遺構が、資料7には第2調査区で検出された遺物包含層の分布域が図示されている。一方12月作製のものは全て第1調査区に関する記録であり、第2調査区のものには存在しない。資料3は調査区全域の平板測量図であるが、資料2に図示されていた「井」の字状に配されたトレンチが記されていない。資料4・5は個別遺構の記録図、資料6は測量地点が不明であるが第1調査区の横断面図である。この他、現存する写真記録は全て第1調査区の遺構完掘後に撮影されたものであるが、第1調査区が撮影されたフィルムのコマ間に吉田第Ⅰ地区B区の調査写真が混入している。第Ⅰ地区B区は、昭和41年10月15日から同月30日の期間に調査が実施されていることから、第Ⅱ地区^{註5}第1調査区の大凡の遺構掘削終了月日が推定できる。

以上から調査の推移を復元すると、少なくとも昭和41年8月初頭には第Ⅱ地区の2ヶ所で調査が開始されたものと推測される。これは前述の第Ⅰ地区A区本発掘調査と同時に開始された、構内遺構確認調査の一環であったのだろう。ただし、第2調査区に関しては資料は平板測量図1枚しか残されておらず、出土遺物も現存しないことから、調査は包含層の分布域を確認するに止まったものと思われる。10月後半に撮影されたと思われる第1調査区撮影フィルム中に、外壁がほぼ完成した状態の動物医療センター建物が確認できる(写真91)ため、包含層確認直後に建設工事に着手したのであろう。

第1調査区に関しては、8月に行われた遺構確認調査後、遺構が密に分布していた地点を対象に本発掘調査が実施されたものと思われる。8月前半には検出されていた遺構を完掘するのに2ヶ月もの期間を要したのは、同時に本調査対象外としたトレンチなどを埋め戻す作業が必要であったからだろうか。10月後半には遺構の完掘状況写真が撮影され、11月以降に遺構の平面図・断面図(資料4・5)が作製されたようである。また遺物袋に11月2日から12月23日までの日付の記載が見られることから、図面作製と同時に遺物も回収されたのだろう。この記録から、調査の終了は12月23日以降であったことが分かる。

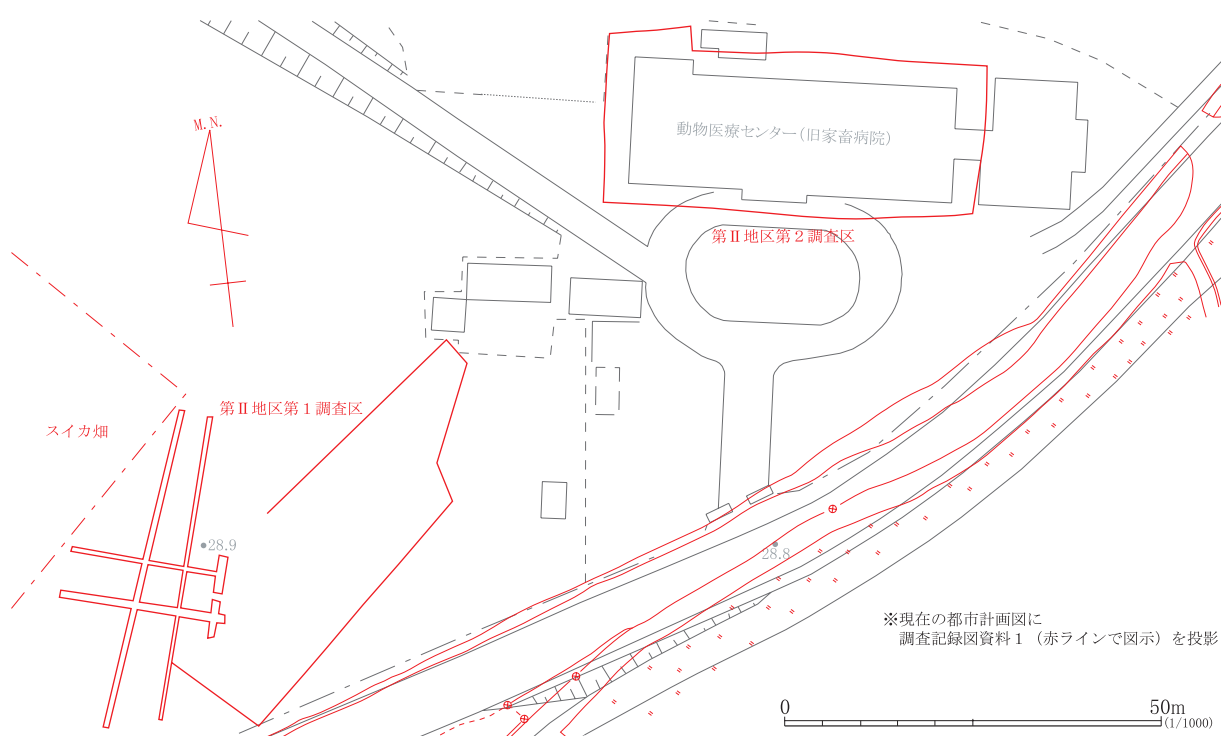


図54 吉田遺跡第Ⅱ地区調査区位置図

3. 第1調査区の成果

a. 立地

第1調査区は、吉田構内の南東にそびえる今山から北西に向かい舌状に派生する低丘陵上に立地する。現状地形から見ると、調査地は支脈丘陵の北東縁辺部に当たるものと思われる。大学移転前は一帯に棚田が形成されていたが、現在は農学部が飼料園として活用している。吉田構内では統合移転前の風景を比較的良好に保つ地点と言える。調査地点の標高は現況で約30mを測る。

b. 遺構(図55～60、表9、写真81～91)

はじめに、遺構に関する記述を行う上での資料上の問題点をまとめておこう。まず、現存する記録図資料には、標高に関する記載が全くなされていない。従って、遺構検出面の高低差を始め各遺構の底面高等は一切不明である。次に、調査区内における遺構配置図として、遺構検出時に作製された資料2と、遺構完掘後に作製された資料3の2種が存在する。両図は共に縮尺が1/50であり、平板によって測量されたものと推測される。両図にはそれぞれ遺構番号が付記されているが、この番号が全く一致していないため、まずは遺構番号の対応関係を明らかにする作業が必要であった。両図は測量の基準とするポイント(基準杭)を共有していないため、両図に共に記載されている特徴的な形状の遺構を基準として重ね合わせてみた。その結果、各々に記載された遺構群の相対的な位置関係だけで言うと大まかには一致しているが、各々の所在位置には大きな差異が生じてしまうことが判明した。この状況では一方の資料を正確なものとして選択する訳にもいかないため、暫定的に調査区中央に走る溝(SD1)を基準として図の合成を行ったのが図55である。この図は、SD1を基準に本発掘調査範囲内(黒実線)を資料3から、それ以外を資料2から投影して作製している。

以上の事実関係を考慮しつつ、遺構に関する概略を記す。第1調査区において検出された遺構総数は、溝1条とピット278基である。図にピットとして記載されているものの中には、土壙または落ち込みとすべきものも混在するが、ここでは現地調査者の認識に従う。

まず目につくのが本調査区の中央を北西－南東に方向に走る溝(SD1)である。この方向は遺跡が立地する丘陵の稜線と同一であることが注目される。この遺構に関しては唯一詳細な遺構平面図が作製されている(図56左)。SD1は全長約12mの規模を有しており、ほぼ均一幅(約1m)をもって直線的に構築されている。深さについての記録は存在しないが、完掘写真(写真84・85)を見る限り10cm～15cm程度であろう。平面図及び完掘写真(写真84・85)では一見溝は調査区内で完結しているようだが、溝北西端部を見ると調査区壁際に一段深まる円形の落ち込みが存在する。この落ち込みは溝に関連するものと見なされたようだが、遺構の重複とも考えられる。後者の場合、SD1は調査区を越えて更に北西方向に伸びる可能性を否定できない。

278基を数えるピット群は、個々の遺構のスケッチ的な平面・断面略図と、長さ・幅・深さの数値データ及び出土遺物が記載された資料(資料5)が残されている。略図に数値データを反映させて復元したものが図56～60である。ただし方位が示されていないため、遺構の主軸方向は不明である。遺構配置図の信頼性が低いため、掘立柱建物跡等の安易な復元は控えたいが、現状ではSD1に平行・直交して並ぶピット列も散見されるため、溝と同時期に建物等が存在したものと推測される。これらのピット群の概略を述べると、SD1を中心に北東側の区画には溝から約10mの範囲に密に分布していることが分かる。また、南西部に関しては溝の縁辺にピット群が密集するが、その南西に幅4m程遺構が希薄な地点が見られる。この地点には、図示されていないものの近現代の田畑利用に伴う暗渠と推定される2条の溝が検出されており(写真81・84)、それに伴い遺構が削平されたとも考えられるが断定できる状況にはない。

- 試掘調査範囲（調査記録図資料1・2より作成）
- 本発掘調査範囲（調査記録図資料3・調査写真より作成）
- 未掘の遺構・包含層

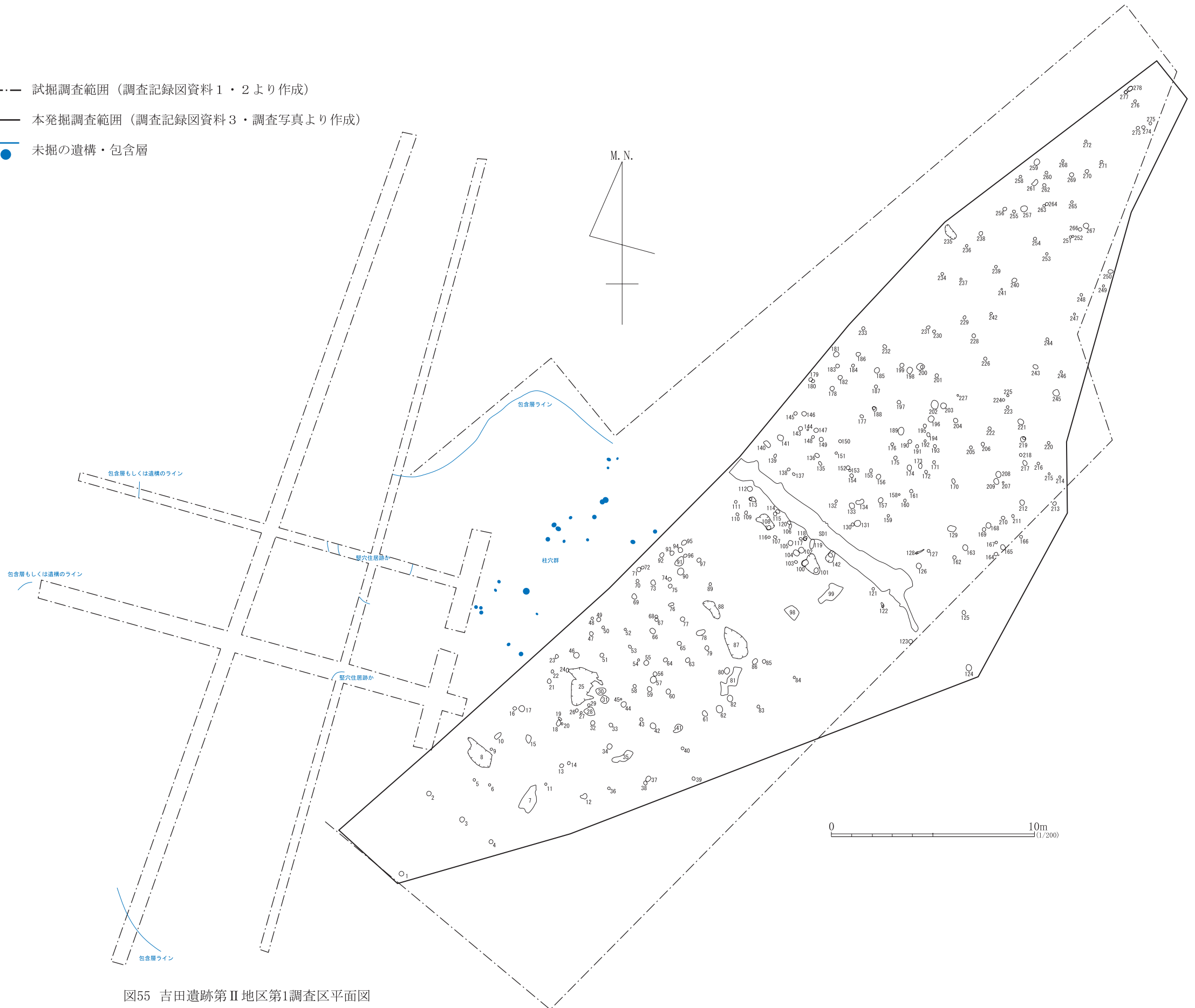


図55 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区平面図

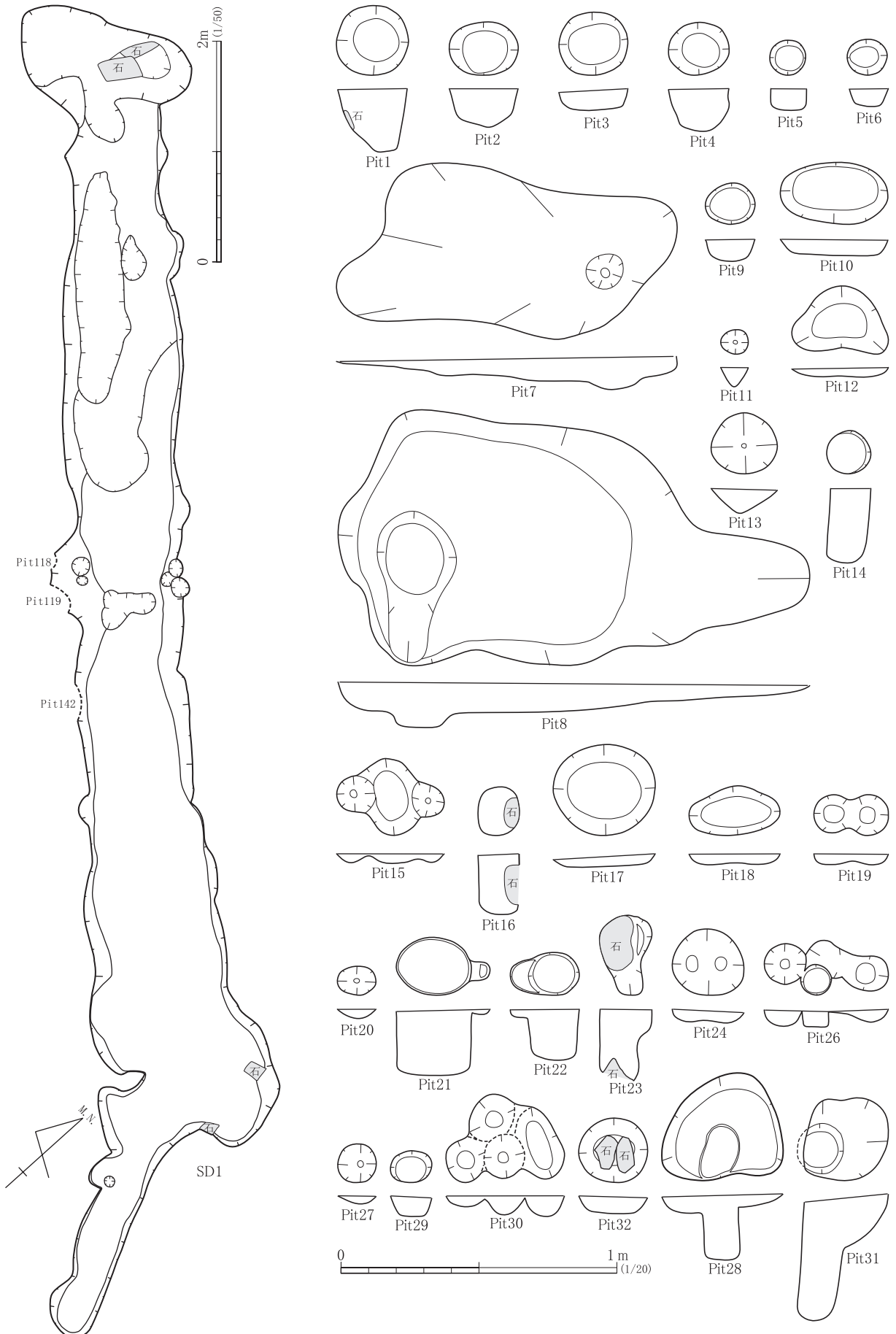


图 56 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図①

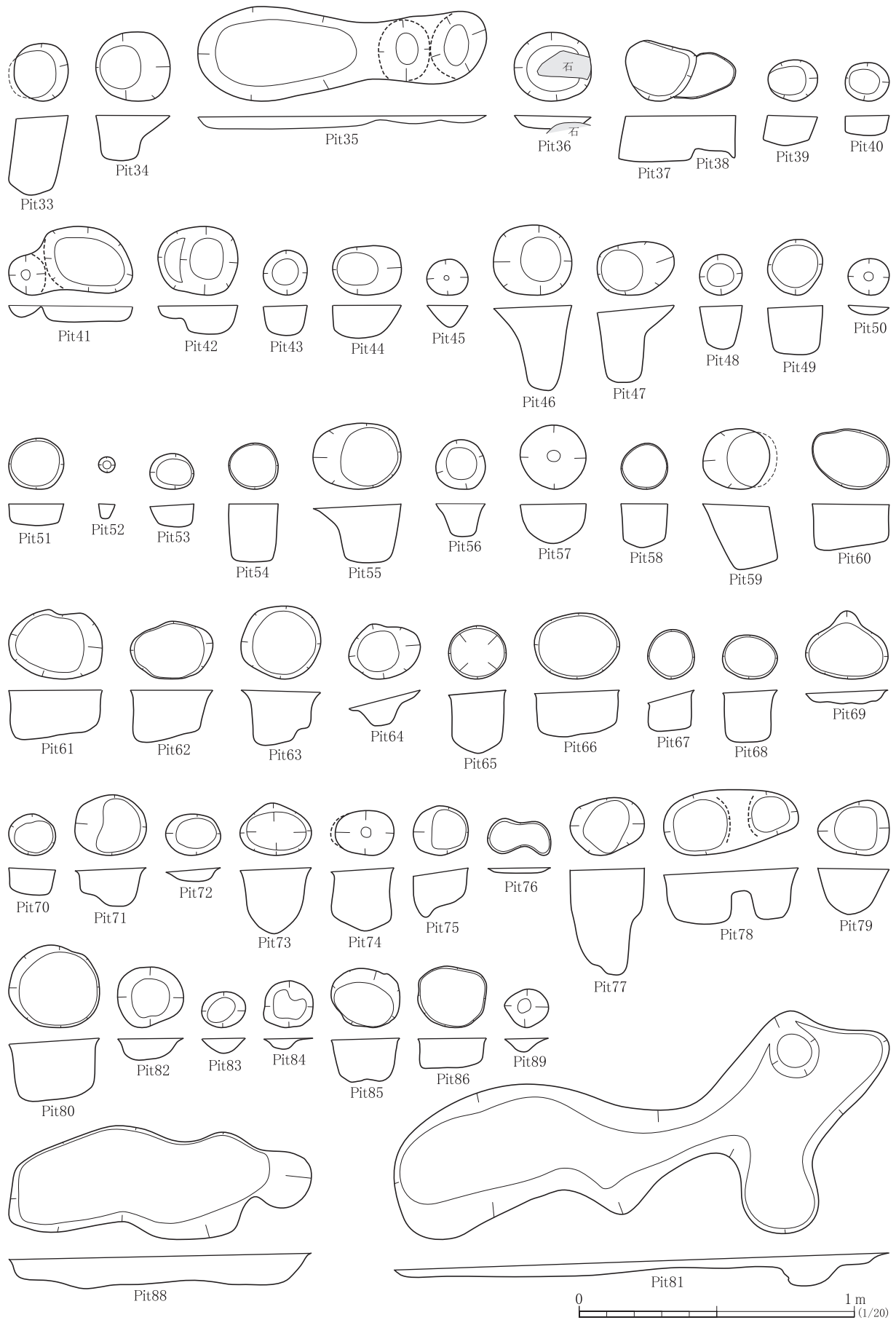


図 57 吉田遺跡第II地区第1調査区 遺構平面図・断面図②

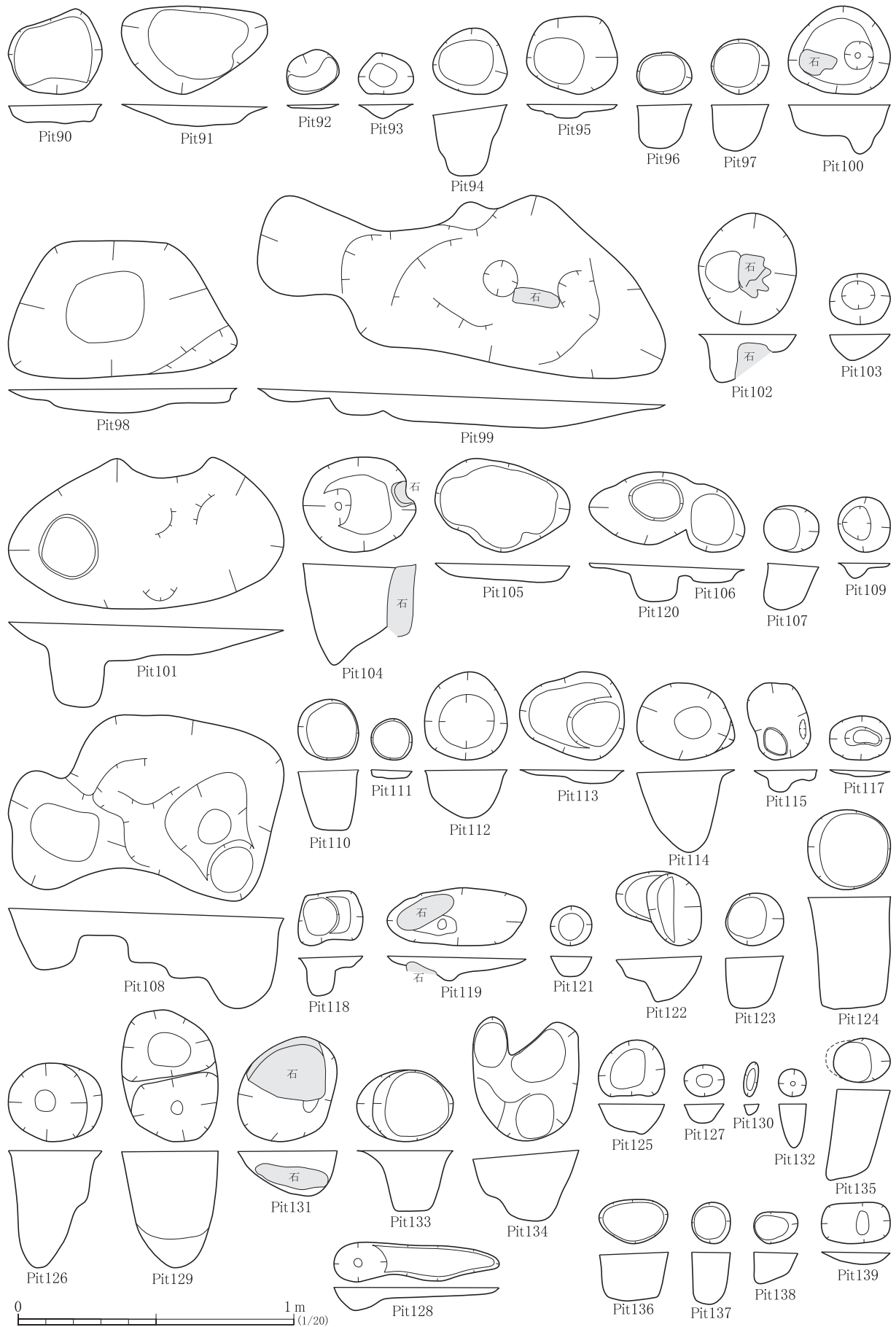


図 58 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図③

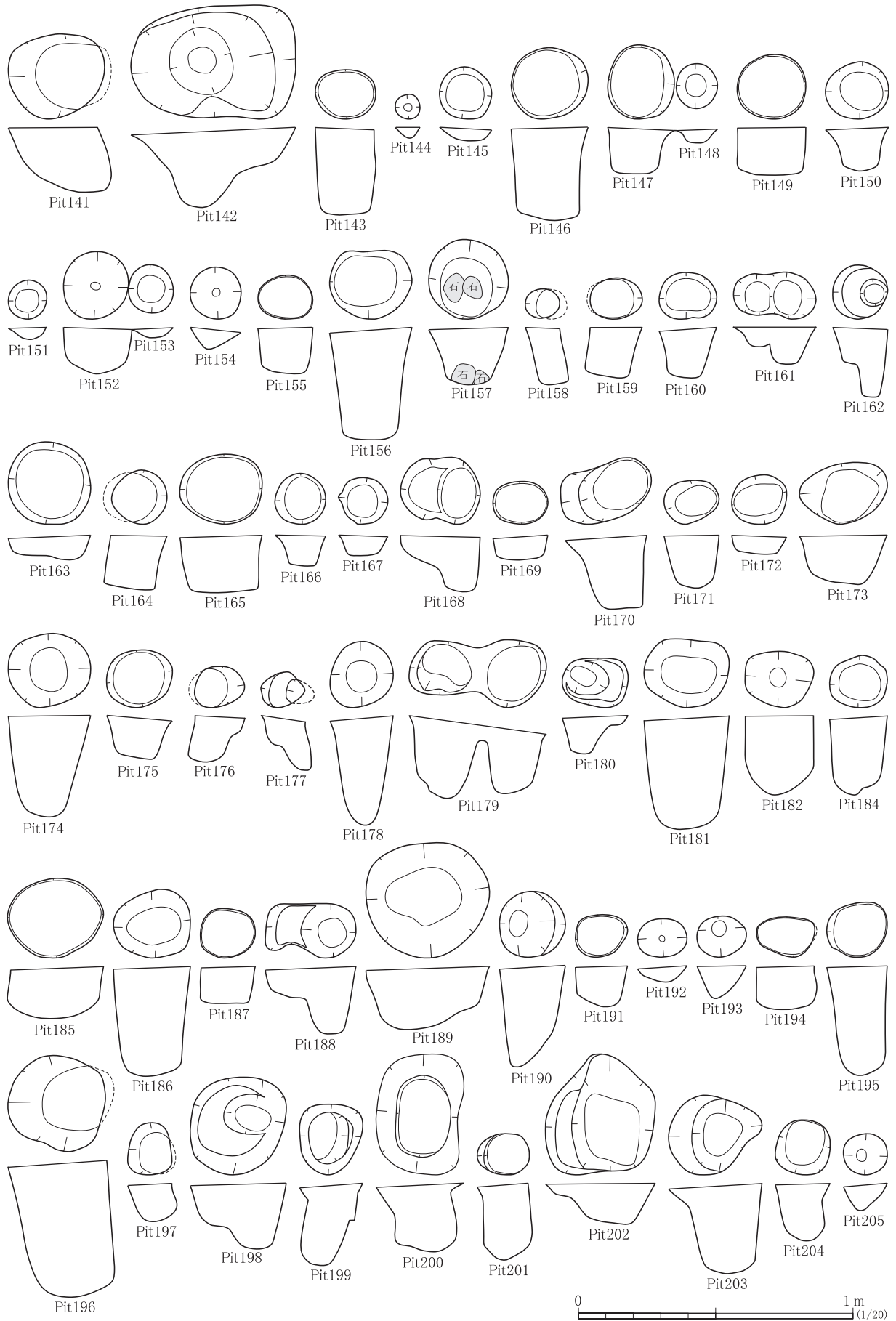


図 59 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図④

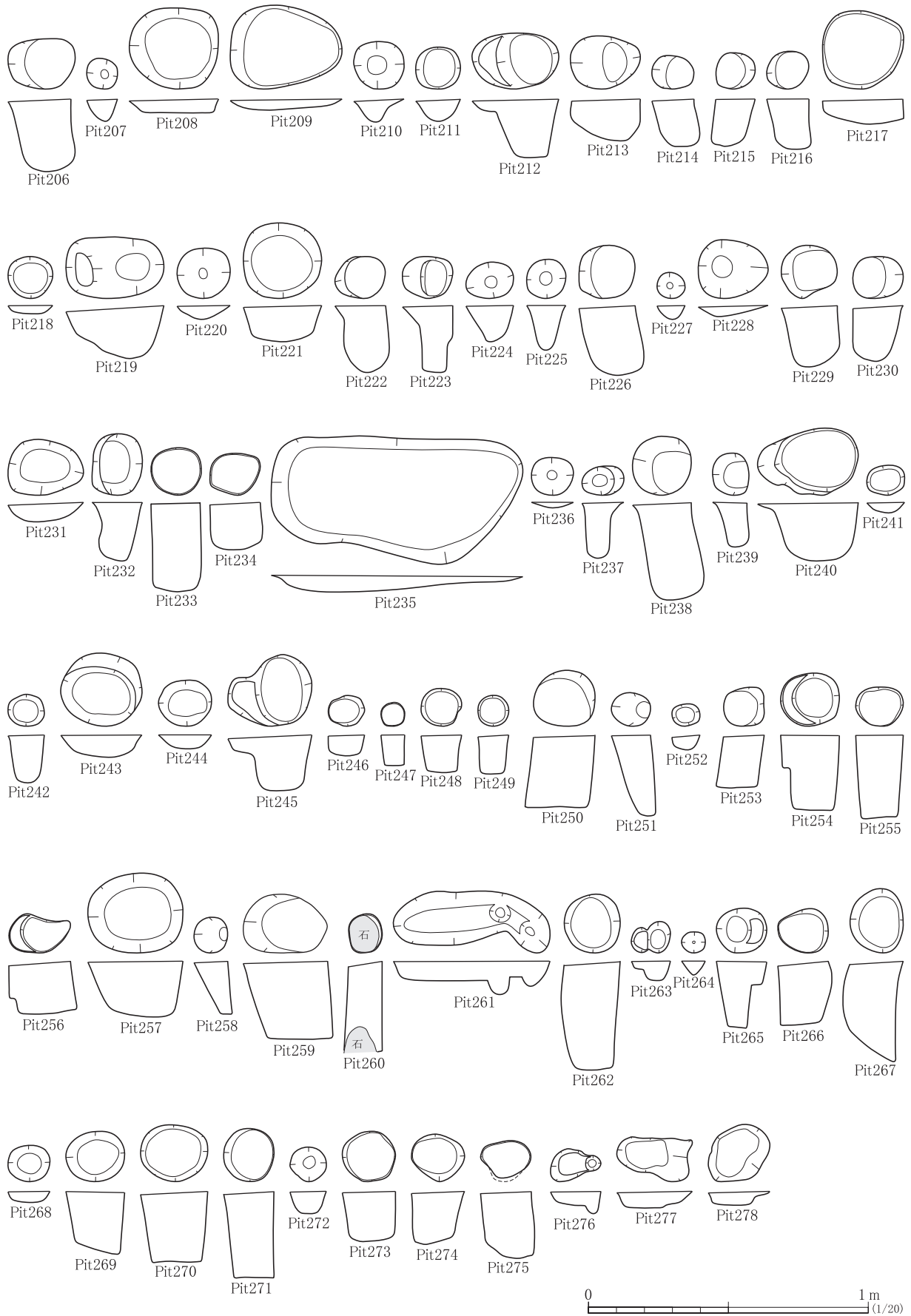


図 60 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図⑤

表9 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区遺構観察・現存遺物一覧表

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
SD1	全長1205 (資料4)	最大幅 165	不明			須恵4・土師14・土師質1 瓦質4・陶器2	
SD1か						須恵22・土師68・土師質1 瓦質20・石製品1・石器1	「溝と思われる所」と記された遺物袋が存在
Pit1	26	24	23		石片1		
Pit2	25	22	14			土師2	
Pit3	25	25	8				
Pit4	22	19	15.5				
Pit5	13	13	8				
Pit6	14.5	14.5	6.5				
Pit7	123.5	61	12			土師1	
Pit8	171	73	16.5		須恵器片・土師	須恵3・土師14・炭化物3	
Pit9	18	15	8				
Pit10	39	22.5	6				
Pit11	10	9	7				
Pit12	35	20	3.5				
Pit13	24	24	9				
Pit14	16	16	27				
Pit15	39	28	3.5				
Pit16	19	15	22		石		
Pit17	37	33	3.5	傾斜			
Pit18	33	18	4				
Pit19	27	12	4		瓦器	須恵1	
Pit20	14	10.5	3.4				
Pit21	34	21	24				
Pit22	25	15.5	18.5		土師・石	土師1	
Pit23	29	12	23				
Pit24	26	24	5				
Pit25	142	不明	9		土師片・須恵器片 糸底・瓦器片1	須恵3・土師4	
Pit26	45	14	6.5				
Pit27	14	14	3				
Pit28	44	39	24		須恵糸底・土師	須恵1	
Pit29	15	12	7.5			須恵1・土師1	
Pit30	43	25	7.5				
Pit31	33	30	46				
Pit32	25	25	6.5		石2	石3	
Pit33	21	19	29				
Pit34	27	25	16.5				
Pit35	105	16	5				
Pit36	28	25	4.5		瓦器	土師3	
Pit37	24	24	17				
Pit38	16	16	15.5		瓦器	須恵1	
Pit39	18	15	11				
Pit40	16	14	7.7			須恵1	
Pit41	45	12	6				
Pit42	29	25	10			須恵2・瓦質1	
Pit43	16	15	11				
Pit44	25	18	12				
Pit45	7.5	7.5	4				
Pit46	28.5	25.5	31				
Pit47	28	18	27.5		瓦器片2		
Pit48	15.5	15.5	16				
Pit49	20	20	18		土師器片1		
Pit50	15	13	3.5				
Pit51	20	20	8				
Pit52	6	6	5.5				
Pit53	16	13	8.5	傾斜			
Pit54	18	18	21.2				
Pit55	32	24	21.5	傾斜			
Pit56	18	18	12			土師3・石1	
Pit57	24	24	14.5				
Pit58	17	17	16				
Pit59	24	22	24			陶器1・粗陶器2	
Pit60	28	22	17				
Pit61	34	24	18		土師3		
Pit62	30	21	19				
Pit63	29	26	20				
Pit64	26	20	9				

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pit65	21	20	23				
Pit66	31	24	17				
Pit67	18	17	15				
Pit68	20	16	19		土師4・須恵2	須恵2・土師1	
Pit69	30	20	5				
Pit70	17	13	10				
Pit71	26	22	14		古式土師2・土師1		
Pit72	20	15	5				
Pit73	26	19	24				
Pit74	20	17	23		土師1・須恵1	土師2	
Pit75	20	18	12				
Pit76	23	9	2				
Pit77	27	21	39		土師2・石英1・不明1		
Pit78	49	不明	21		須恵1・不明1	須恵1・瓦質1	2基のPitの切り合いか
Pit79	26	20	17		土師2	土師1	
Pit80	33	30	23				
Pit81	180	16	12		須1・土3		
Pit82	24	22	8				
Pit83	16	13	5.5				
Pit84	18	17	4				
Pit85	25	21.5	16		土師		
Pit86	25	22	11			瓦質1	遺物:試掘時の遺構番号
Pit87	不明	不明	不明			須恵3・土師12・土師質1 瓦質1・石製品1	資料3の平面図のみ
Pit88	110	20	13		土製支脚1・土師5 須恵6・不明6	土師4・瓦質1	
Pit89	16	14	5				
Pit90	34	31	7				
Pit91	53	32	8		土師1	土師1	
Pit92	19	18	1.5				
Pit93	20	15	5				
Pit94	27	24	26				
Pit95	33	28	5				
Pit96	20	16	16				
Pit97	21	20	17			須恵2・土師3・瓦質4・石2	
Pit98	83	50	9		須恵2・土師	土師1・瓦質1	
Pit99	148	64	10		須恵5・土師12	須恵2・土師9・瓦質2	
Pit100	37	32	18	石	須恵4・土師多数	須恵3・土師11・瓦質2	
Pit101	100	55	31				
Pit102	40.5	35.5	17.5				
Pit103	22	18.5	9.5				
Pit104	41	34.5	37	木片		炭化木	
Pit105	49	34	7		土師7	土師4	
Pit106	56.5	14.5	13		土師1・不明1	須恵1・土師6・瓦質4	Pit120との切り合い
Pit107	20	17	21		土師1	須恵1・土師10・瓦質1	
Pit108	100	56	33		土師多数・須恵5 不明1	須恵3・土師25・瓦質3	複数Pitの切り合いか
Pit109	20	19	5.5				
Pit110	22	22	22		土師3・須恵1	須恵1・土師2	
Pit111	15	15	3				
Pit112	32	30	17.5		土師1		
Pit113	38	32	5				
Pit114	35.5	28	30				
Pit115	28	23	8		土師2		
Pit116	不明	不明	不明				記載なし
Pit117	22	16	2.5				
Pit118	23.5	20	14.5		土師4	瓦質1	
Pit119	50.5	21	9				
Pit120	56.5	14.5	13		土師1・不明1	須恵1・土師6・瓦質4	Pit6との切り合い
Pit121	15	14	7.5		土師4・須恵1・瓦器1		
Pit122	31	27	17	底に石	土師2・須恵	土師2・瓦質1	
Pit123	21	20	19				
Pit124	30	29	41		土師2・炭化物2		
Pit125	24	20.5	11	せっこう3		石3	
Pit126	34	28.5	42.5		土師2・石片1		
Pit127	14.5	11.5	7		須恵1	須恵1	
Pit128	60	14.5	8.5				
Pit129	48	35	42.5	焼け石	土師2		
Pit130	12.5	5.5	4				
Pit131	38	36	16.5	底部に石	瓦器1	土師1・瓦質1・石3	
Pit132	10	10	16				
Pit133	35	26	22		須恵1・瓦器(中世)1		

吉田遺跡第II地区の調査

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pit134	45	38.5	不明	時代の異なる柱 が3本くらいある			複数Pitの切り合いか
Pit135	20.5	16	33		土師1		
Pit136	25	15	17.5		土師1・須恵1	須恵1・土師2	
Pit137	15	14	19				
Pit138	16	11.5	11.5				
Pit139	25	15	4.5				
Pit140	不明	不明	不明	柱穴ではなくよく わからない			
Pit141	31.5	31	23		瓦器・須恵・木片		
Pit142	60	41.5	不明		須恵1・瓦器1・土師3	須恵1・土師11・石1	
Pit143	22	18	32				
Pit144	9	9	4				
Pit145	19	19	5				
Pit146	28	26	34		石		
Pit147	27	24	17				
Pit148	15	15	7.5			土師1	遺物:試掘時の遺構番号
Pit149	25	23.5	17.5				
Pit150	23	20	16		土師		
Pit151	14	14	4.5				
Pit152	25	25	17		石・須恵		
Pit153	15	15	5			瓦質1	遺物:試掘時の遺構番号
Pit154	18.5	18.5	8				
Pit155	20	16	17				
Pit156	30	25	41			瓦器	須恵1・土師8・瓦質5
Pit157	29	29	21			石	
Pit158	12.5	12.5	21				
Pit159	19	15	18.5				
Pit160	21	17	18.5				
Pit161	30	15	13.5				2基のPitの切り合いか
Pit162	20	20	25.5				
Pit163	30	30	9				
Pit164	20	20	20				
Pit165	30	25	24		土師・石多	須恵1・土師3・瓦質1	
Pit166	18.5	18.5	11.3		須恵	土師2・瓦質1・陶器1	
Pit167	18	17	7.5			土師3	
Pit168	29	21.5	20		須恵器片		
Pit169	20	15.2	9.1		土師		
Pit170	33	20	27				
Pit171	20	16	21				
Pit172	20	18	7				
Pit173	32	23	18		土師・須恵 数片		
Pit174	30	27	37		木炭・土師		
Pit175	24	21	16		須恵1・土師数片		
Pit176	18	15	17				
Pit177	16	13	20				
Pit178	24	23	40				
Pit179	50	20	30				2基のPitの切り合いか
Pit180	24	18	14				
Pit181	31	25	41.5		土師		
Pit182	25	20.5	29				
Pit183	不明	不明	不明				記載なし
Pit184	21	19	17.5				
Pit185	35	29	19				
Pit186	28	25	40	かきなおし		土師3・瓦質1	
Pit187	20	18	13.5				
Pit188	33	20	24				
Pit189	45	42	23				
Pit190	24	24	37				
Pit191	19	15	15				
Pit192	18	14	6				
Pit193	18	15	12				
Pit194	22	15	16				
Pit195	22	20	40		瓦器・土師・須恵	須恵1・土師1	
Pit196	36	35	50		須恵・瓦器・木片 土師・石	土師3・瓦質1・粘土塊	
Pit197	19	16	14				
Pit198	36	35	24				
Pit199	26	23	30		須恵・土師	須恵1・土師1	
Pit200	44	32	25				
Pit201	19	15	28				
Pit202	44	40	15		土師	土師3	

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pit203	34	29	33		土師・瓦器	須恵2・土師3・石1	
Pit204	20	20	21				
Pit205	16	15	10				
Pit206	24	18	26		土師		
Pit207	11	11	8				
Pit208	32	29	5				
Pit209	40	30	4				
Pit210	18	17	8				
Pit211	15	15	8				
Pit212	31	20	21				
Pit213	25	19	15		土師	土師2	
Pit214	15	12	17				
Pit215	14	13	17				
Pit216	15	14	18		須恵	須恵4・土師11・瓦質1・石1	
Pit217	29	18	9				
Pit218	16	15	3				
Pit219	35	22	19		須恵	須恵1	
Pit220	19	18	5				
Pit221	28	27	13		土師・須恵	須恵1・土師6	
Pit222	18	15	24		土師		
Pit223	18	16	23				
Pit224	17	13	18				
Pit225	14	14	16				
Pit226	20	19	25		須恵	須恵2	
Pit227	10	10	5				
Pit228	25	21	4				
Pit229	20	19	22		土師	土師1	
Pit230	18	15	20				
Pit231	27	20	7				
Pit232	22	18	21				
Pit233	18	17	32		須恵	須恵1	
Pit234	18	15	17				
Pit235	90	45	5		須恵・土師・瓦器	須恵1・瓦質1	
Pit236	15	14	2				
Pit237	15	10	20				
Pit238	21	21	35		土師	弥生?1	
Pit239	15	13	16				
Pit240	36	24	21		須恵		
Pit241	13.5	10	4				
Pit242	13	11	15				
Pit243	29	26	8		土師	土師1	
Pit244	19	17	5				
Pit245	30	26	20				
Pit246	13	11	7.5				
Pit247	8.5	8.5	11				
Pit248	14.5	13.5	13.5				
Pit249	11	11	14				
Pit250	22	20	26		土師・瓦器		
Pit251	14	12	29				
Pit252	10	8	5				
Pit253	14.5	14	19				
Pit254	21	19	27				
Pit255	17	14	30				
Pit256	22	14	19				
Pit257	34	30	20				
Pit258	13	12	19				
Pit259	30	21	28				
Pit260	14	12	33		石		
Pit261	56	12	12				
Pit262	21	20	39				
Pit263	14	7	7				
Pit264	8.5	7	5				
Pit265	18	16	24				
Pit266	18	16	26				
Pit267	23	19	36				
Pit268	15	13	4				
Pit269	21	18	22.5				
Pit270	24	20	25.5		土師・瓦器	須恵1・土師1・石1	
Pit271	19	18	31		須恵		
Pit272	13	12	8				
Pit273	19	18	18				
Pit274	19	17	19		須恵1	須恵1	
Pit275	18	15	24		土師・須恵		
Pit276	18	12	8				
Pit277	27	16	6				
Pit278	22	16	5				

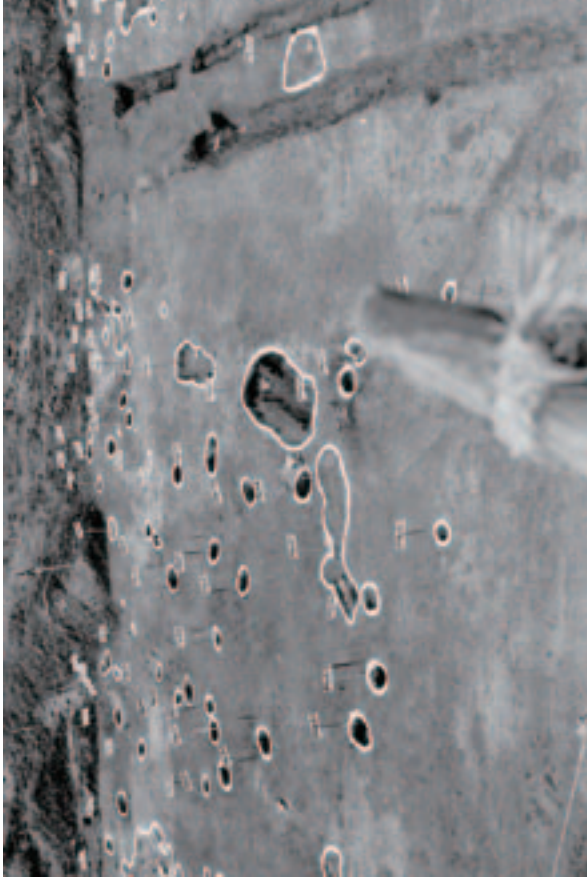


写真 81 第Ⅱ地区第1調査区南西部（南東から）

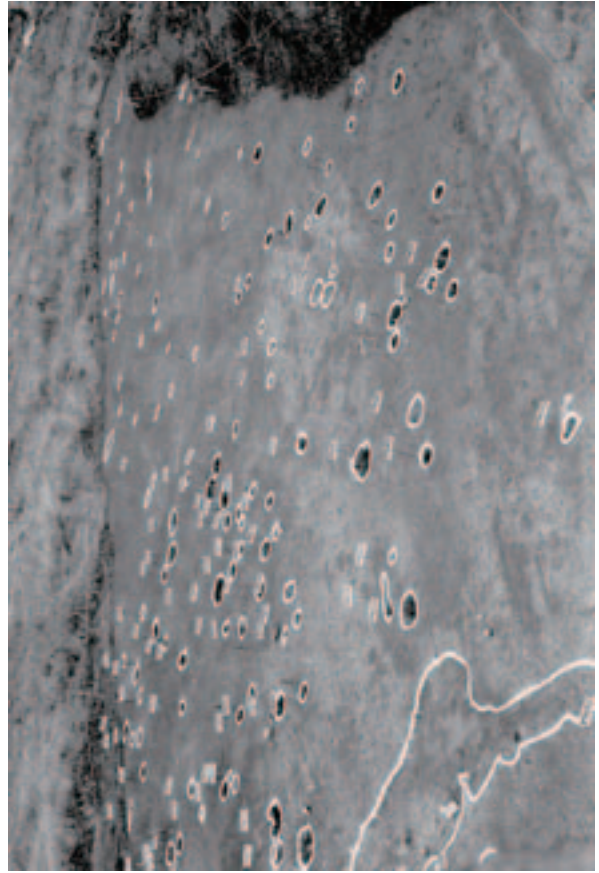


写真 82 第Ⅱ地区第1調査区北東部（南西から）

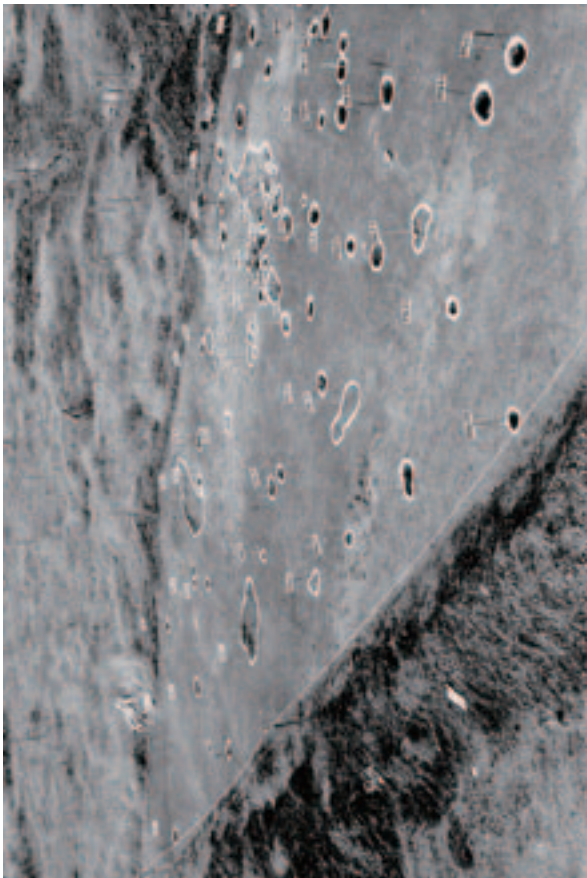


写真 83 第Ⅱ地区第1調査区南西部（西から）

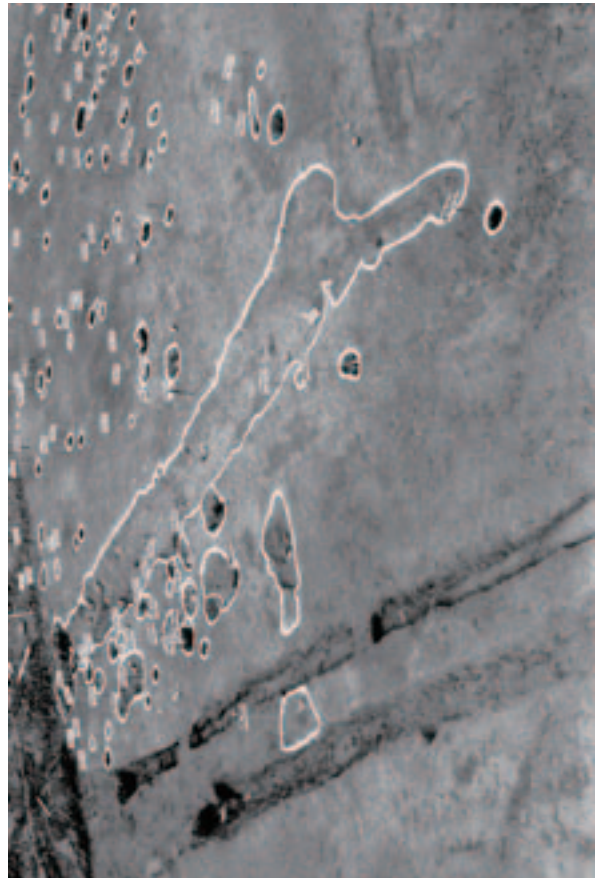


写真 84 第Ⅱ地区第1調査区北東部（南から）



写真 85 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群（南から）

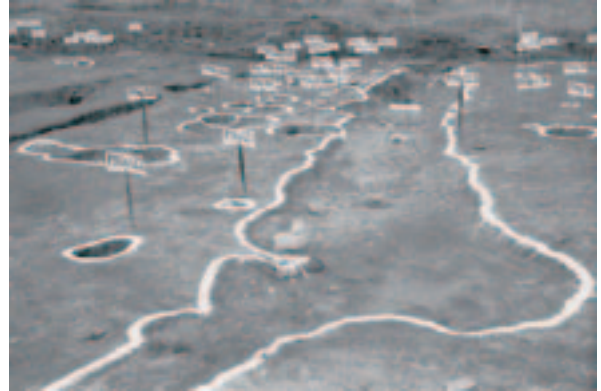


写真 86 第Ⅱ地区第1調査区中央部 SD1（南東から）

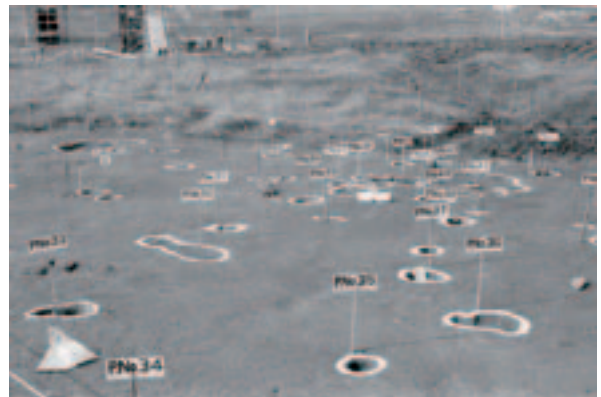


写真 87 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群（南東から）



写真 88 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群（東から）



写真 89 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群（北東から）



写真 90 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群（東から）



写真 91 第Ⅱ地区第1調査区遠景（南西から）

c. 遺物(図61～64、表9・10、写真92～98)

前述したように、現在埋蔵文化財資料館には遺物収納コンテナ1箱分の第Ⅱ地区第1調査区出土資料が保管されており、収納されている遺物袋には遺構番号や取り上げ年月日などが記載されている。それらの注記を見ると、個別遺構が特定できるものが69袋、SD1出土と推定されるものが5袋、複数ピットの出土遺物が混在すると考えられるものが13袋、表採等詳細が不明なものが4袋である。表9に遺構と現存資料の対応を記しているが、個別遺構記録時の出土遺物表記とほぼ対応しているものの、記録には記載されているが遺物袋が存在しないもの、逆に遺物袋は存在するが記録には記載されていないものもある。前者については混在する遺物袋に混ざったものと推測することが可能であるが、後者に関しては判断が難しい。ここで遺構掘削完了時に撮影されたと考えられる写真(写真81～90)に目を転じると、新たな事実が浮かび上がる。写真は各遺構の縁に遺構番号を示す標識を立てた状態で撮影されているが、その番号と調査後半に作製された平板測量図(図54)に記載された遺構番号を見比べると、大きく齟齬を来していることが分かる。特に遺物袋が写されている写真86・87と図54とを比較していただければ一目瞭然だろう。つまり、現状では記録された遺構と出土遺物との相関性は保証できないと言える。

以上の事実を念頭に置き出土遺物の全体像を見てみよう。図61～64にかけて遺物実測図を掲載しているが、遺物の大多数が小片であるため図化可能なものは極めて少ない。ピット出土とされるもの(1～55、87～123)は概ね古代から中世の土器で占められる。須恵器ではかえりをもつ坏身片(100)や坏蓋片(15)なども存在するが、多くは8世紀後半から9世紀にかけての資料である。一方土師器では高台が退化し、断面が三角形を呈する底部片(18、27、46、51、89、90、103)が目につき、瓦質土器においては、14世紀中に姿を消すと推定される羽釜(13、33、36、47、104)が存在する。これらは13世紀から14世紀にかけての遺構群の存在を示唆する遺物群ととらえられる。また鍋(87)は口縁内端部にわずかな突起を有することから、口縁部単体では岩崎氏分類のVIB型式もしくはVIA古型式に該当するようにも感じられるが、土師質であること、口縁部長が短いこと、体部に叩き痕を残すことから、岩崎氏分類ではⅡ型式からⅢ型式に属する個体と見なすべき資料であろう^{註6}。その他中世の遺物としては滑石製の石鍋底部片(25)も出土している。

この他に、ピット出土とされる資料中で注目されるのは、整理NO.83「吉田第Ⅱ柱穴S.41.11.23」と注記された遺物袋である。この袋には89点の土器片が収められているが、その全てが弥生土器である。単一遺構から出土したものか、複数遺構から出土した弥生土器を一括して収納したものなのかは不明であるが、この資料により遺跡南東部の丘陵地帯においても弥生時代の遺構が存在することがほぼ確定的となった。資料の多くは接合しない体部片であるが、図化可能なもの(110～123)を見ると、底部片では前期から中期までの資料が存在している。一方120は後期の壺頸部片と考えられるが、頸部に貼り付けた薄い粘土帯上に二枚貝による施文が行なわれており注目される。

SD1に関連する資料としては、遺物袋に「溝」と注記されているもの(56～66)と、「溝と思われる所」と記されているもの(67～86)が存在する。資料を見ると古代から中世にかけての土器類が中心であるが、少数ではあるものの近世の磁器(65、66)や土師質土器(63、64)も見られる。前述したようにこの溝は北西部において落ち込み状の遺構と重複している可能性があり、縁辺のピットとも切り合い関係を有している。現状では中世期に形成された溝と見なしたい。特徴的な遺物としては外面に煤が付着した石鍋体部片(86)が挙げられるが、断面三角形の貼り付け高台を有する椀の底部片(84)も注目される。内面には粗くミガキが施されており、土師器椀の末期形態と思えるが、外面に見られるあまい炭素吸着や全周しない高台の貼り付け方法などは和泉型瓦器椀Ⅳ期初頭に見られる特徴であり、注意が必要であろう。

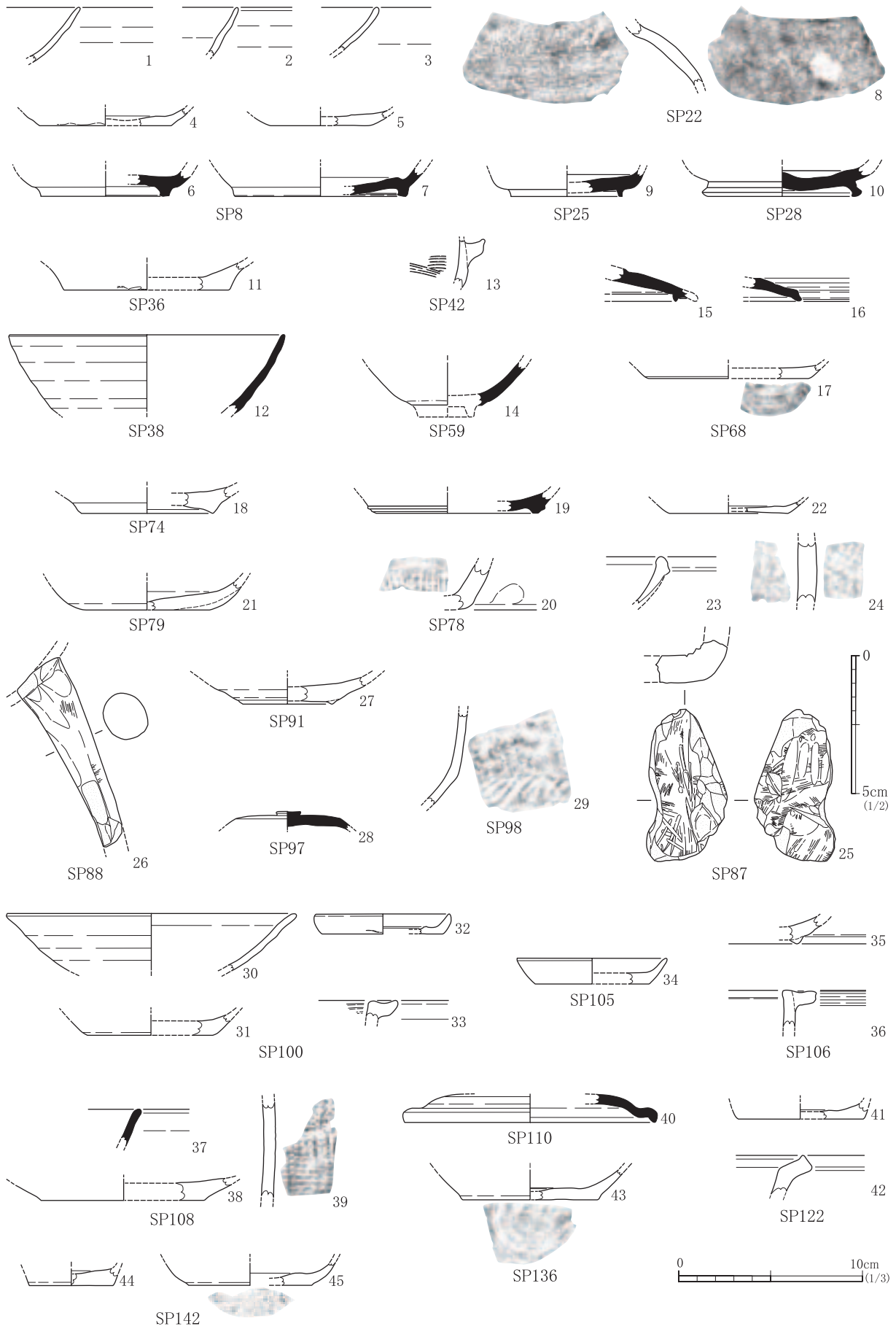


図 61 第II地区第1調査区出土遺物実測図①

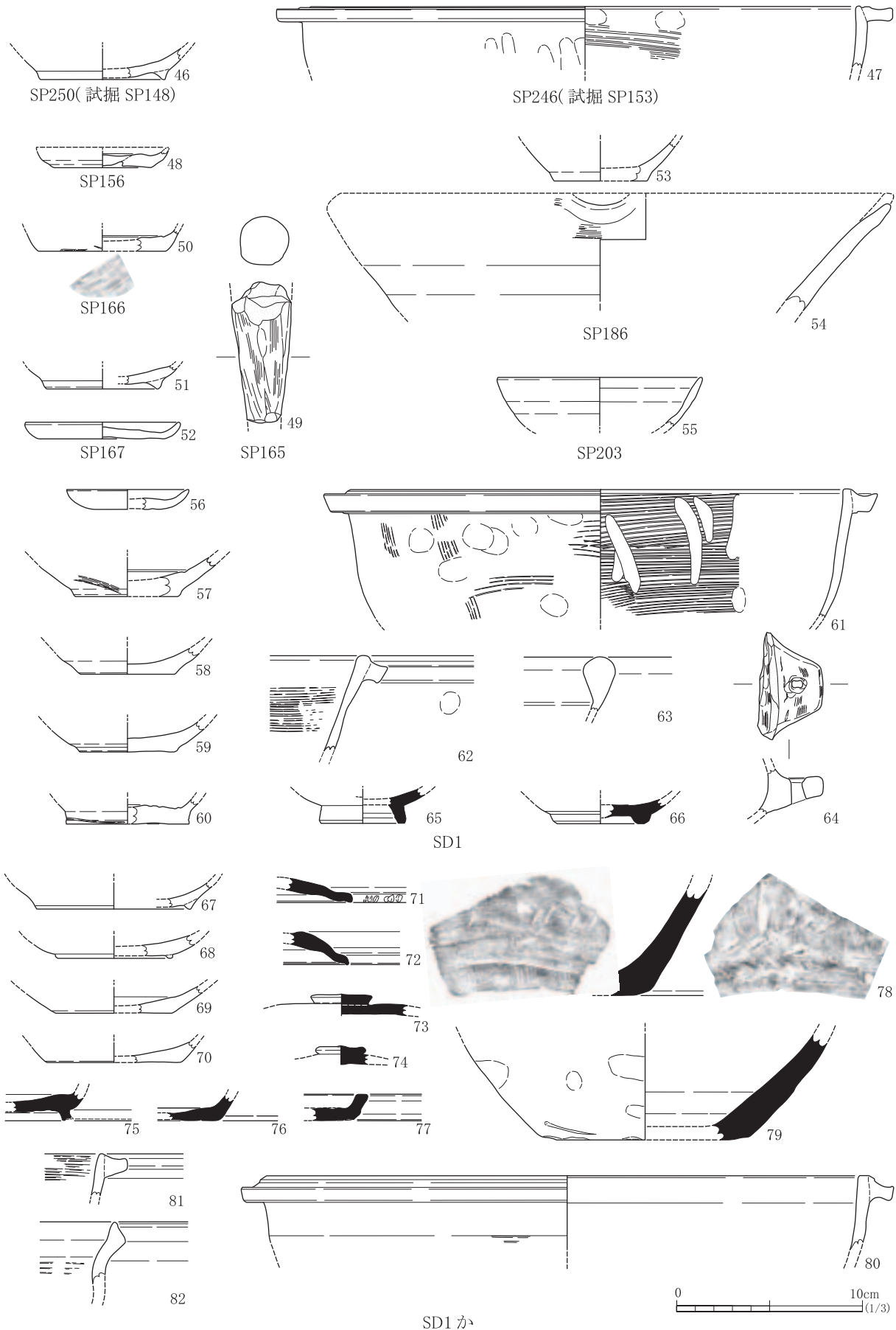


図 62 第II地区第1調査区出土遺物実測図②

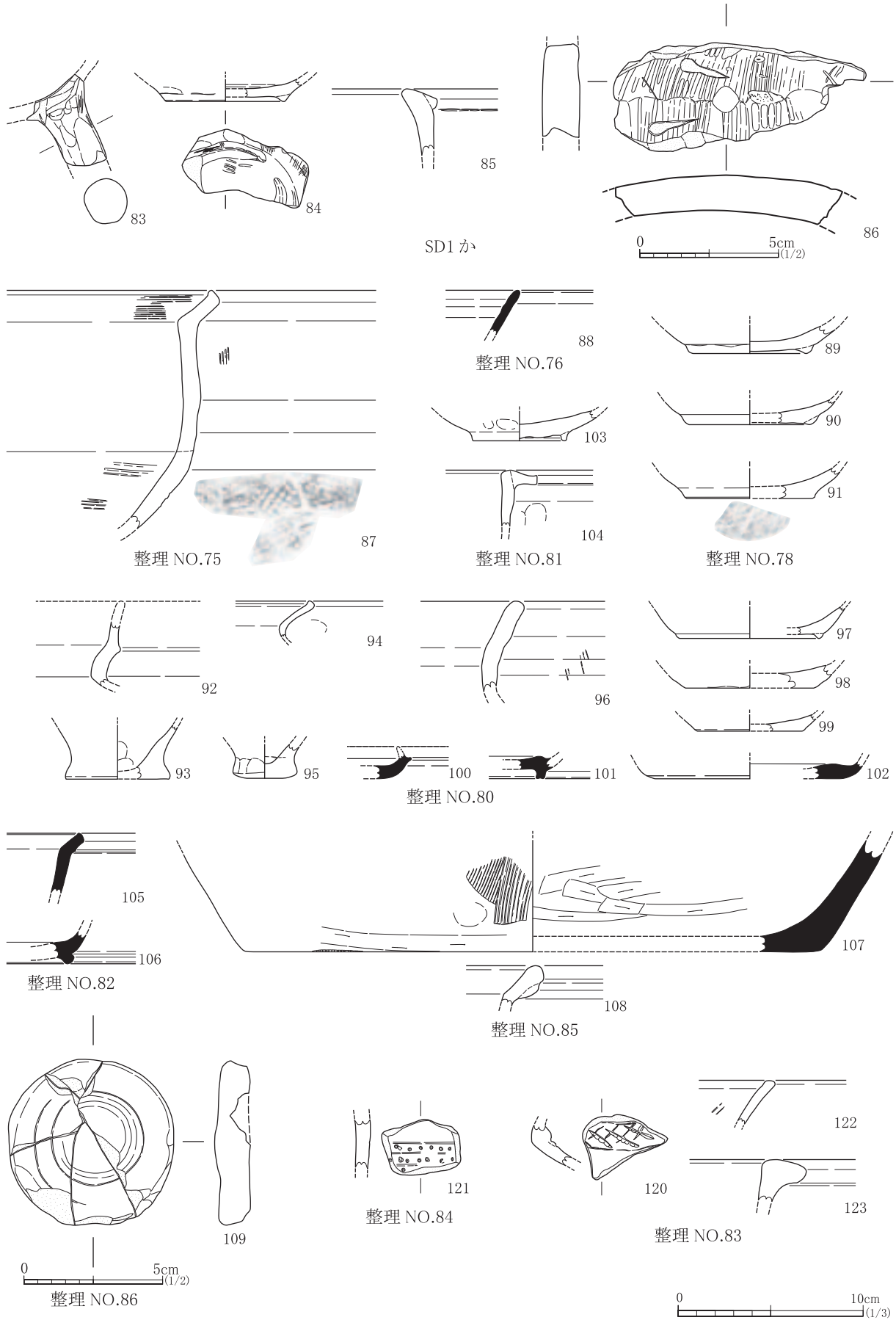
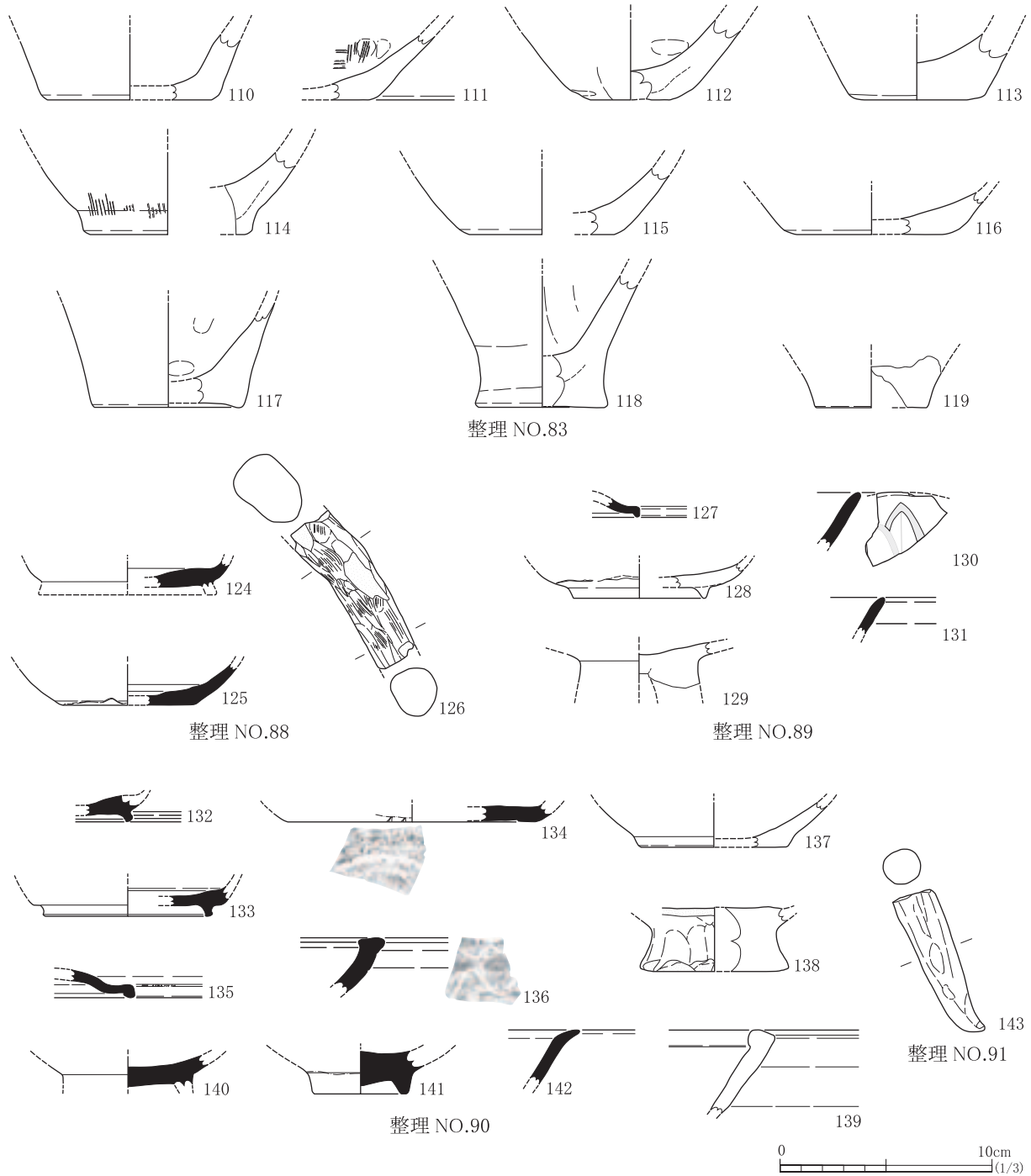


図 63 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図③



遺物袋の注記

整理 NO. 75…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 2	柱穴辞	整理 NO. 84…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴
整理 NO. 76…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 6	柱穴辞	整理 NO. 85…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴辞
整理 NO. 78…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	柱穴辞	整理 NO. 86…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴辞
整理 NO. 80…吉田遺跡	S. 41. 11. 10	第Ⅱ遺跡	柱穴辞	整理 NO. 88…1966. 8. 11	平川Ⅱ地点	表面採集	
整理 NO. 81…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	柱穴辞	整理 NO. 89…1966 8/13	吉田遺跡Ⅱ	○(不明文字) 带状	
整理 NO. 82…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	第Ⅱ遺跡 柱穴辞	整理 NO. 90…1966 8/13	吉田遺跡Ⅱ		
整理 NO. 83…吉田	第Ⅱ遺跡	柱穴	S. 41. 11. 23	整理 NO. 91…1966. 9. 9	平川吉田遺跡	第Ⅱ地区付近	

図 64 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図④

表10 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高		①外面	②内面		
1	SP8	土師器 坏	口縁部			①橙色(5YR7/6) ②浅黄橙色(7.5YR8/4)		0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
2	SP8	土師器 坏	口縁部			①橙色(7.5YR7/6) ②浅黄橙色(7.5YR8/4)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
3	SP8	土師器 皿か	口縁部			①浅黄橙色(7.5YR8/4) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)		精緻	
4	SP8	土師器 皿か	底部	②(7.0)		①②にぶい橙色(7.5YR7/4)		0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
5	SP8	土師器 皿	底部	②(5.4)		①②浅黄橙色(7.5YR8/4)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
6	SP8	須恵器 高台付坏身	底部	②(7.0)		①灰色(N6) ②灰白色(N7)		0.5~1mmφの細砂粒 多く混ざる	
7	SP8	須恵器 高台付坏身	底部	②(9.3)		①②青灰色(5B5/1)		0.1~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
8	SP22	土師器 甕	体部			①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.1~1mmφの細砂粒 多く混ざる	
9	SP25	須恵器 高台付坏身	底部	②(6.1)		①灰色(N5) ②灰色(N6)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
10	SP28	須恵器 高台付坏身	底部	②(8.0)		①②灰白色(N7)		0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
11	SP36	土師器 坏か	底部	②(9.0)		①②橙色(5YR6/8)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
12	SP38	須恵器 坏身	口縁部 ~体部	①(15.0)		①②灰白色(2.5Y7/1)		0.5~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	
13	SP42	瓦質土器 羽釜	口縁部			①②灰白色(2.5Y8/1)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
14	SP59	陶器 鉢か	底部~ 体部			素地 にぶい黄橙色 (10YR7/2) 釉 灰白色(N8)		0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	藁灰釉
15	SP68	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰白色(N7)		0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
16	SP68	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰色(N6)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
17	SP68	土師器 皿か	底部	②(8.7)		①②にぶい黄橙色(10YR7/4)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	底部糸切り
18	SP74	土師器 高台付坏か	底部	②(7.2)		①浅黄橙色(7.5YR8/3) ②灰白色(10YR8/1)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
19	SP78	須恵器 高台付坏身	底部	②(9.8)		①②灰白色(N7)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
20	SP78	瓦質土器 播鉢	底部			①②にぶい黄橙色(10YR7/2)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
21	SP79	土師器 皿か	底部	②(6.6)		①橙色(5YR6/6) ②橙色(5YR7/6)		0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
22	SP87	土師器 皿	底部	②(6.4)		①②灰白色(10YR8/2)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
23	SP87	土師質土器 鉢	口縁部			①②赤橙色(10R6/6)		0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
24	SP87	瓦質土器 鍋釜類	体部			①②灰色(N5)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
26	SP88	瓦質土器 足鍋	脚部			①灰白色(2.5Y8/1)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
27	SP91	土師器 高台付坏か	底部	②(4.9)		①灰白色(2.5YR8/2) ②浅黄色(2.5Y8/3)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
28	SP97	須恵器 坏蓋	天井部 ~体部	つまみ径 1.5		①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
29	SP98	瓦質土器 鍋釜類	体部			①②灰白色(10YR8/1)		0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
30	SP100	土師器 坏	口縁部 ~体部	①(15.8)		①②にぶい橙色(7.5YR7/4)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
31	SP100	土師器 坏か	底部	②(7.0)		①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰白色(10YR8/1)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
32	SP100	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(7.3)②(6.5)③1.1		①橙色(5YR6/6) ②橙色(5YR7/6)		0.1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
33	SP100	瓦質土器 羽釜	口縁部			①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
34	SP105	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(8.2)②(6.2)③1.4		①②橙色(5YR6/6)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
35	SP106	土師器 高台付坏か	底部			①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰白色(N8)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
36	SP106	瓦質土器 羽釜	口縁部			①②暗灰色(N3)		0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
37	SP108	須恵器 坏身	口縁部			①②灰白色(N7)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺物 番号	遺構	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面		
38	SP108	土師器 皿か	底部	②(9.0)	①橙色(5YR6/6) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
39	SP108	瓦質土器	体部		①白色(9) ②灰白色(N7)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
40	SP110	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部	①(13.6)	①灰色(N6) ②灰色(N5)	0.1~0.5mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
41	SP122	土師器 皿か	底部	②(6.8)	①②橙色(7.5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
42	SP122	瓦質土器 鍋か	口縁部		①②灰白色(5Y8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
43	SP136	土師器 坏	底部~ 体部	②(7.3)	①②橙色(7.5YR7/6)	0.5~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	底部糸切り
44	SP142	土師器 皿	底部	②(4.6)	①②橙色(5YR6/8)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
45	SP142	土師器 坏か	底部	②(6.6)	①②にぶい褐色(7.5YR5/3)	0.1~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	底部糸切り
46	試SP148 本SP250	土師器 坏	底部	②(6.6)	①②灰白色(10YR8/2)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	試掘時 出土品
47	試SP153 本SP246	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(29.2)	①②暗灰色(N3)	0.5~2mmφの粗砂粒 多く混ざる	試掘時 出土品
48	SP156	土師器 皿	底部~ 体部	②(5.3)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
49	SP165	瓦質土器 足鍋	脚部		①灰白色(2.5Y8/1)	0.5~2mmφの粗砂粒 多量に混ざる	
50	SP166	土師器 皿か	底部	②(6.9)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	底部糸切り
51	SP167	土師器 高台付坏	底部	②(6.0)	①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
52	SP167	土師器 皿	口縁部 ~底部	①8.2②6.7③0.9	①②橙色(7.5YR6/6)	0.5~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	
53	SP186	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.0)	①②浅黄橙色(10YR8/3)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
54	SP186	瓦質土器 片口鉢	口縁部 ~体部		①②灰色(N4)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
55	SP203	土師器 椀	口縁部 ~体部	①(11.0)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
56	SD1	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(6.6)②(4.0)③1.05	①②橙色(5YR6/6)	0.1~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	
57	SD1	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.6)	①②橙色(5YR7/8)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
58	SD1	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.1)	①浅黄橙色(7.5YR8/4) ②橙色(7.5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
59	SD1	土師器 坏	底部	②(5.2)	①橙色(7.5YR7/6) ②浅黄橙色(7.5YR8/4)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
60	SD1	土師器 坏	底部	②(6.6)	①②橙色(5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
61	SD1	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(26.2)	①②暗灰色(N3)	0.1~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	
62	SD1	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部		①②暗灰色(N3)	0.1~0.2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
63	SD1	土師質土器 甕	口縁部		①②浅黄橙色(7.5YR8/4)	0.1~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
64	SD1	土師質土器	把手		にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5~3mmφの粗砂粒 極少量混ざる	
65	SD1	陶器 碗か	底部~ 体部	②(4.5)	素地 灰黄色(2.5Y7/2) 釉 灰白色(7.5Y8/1)	精緻	藁灰釉
66	SD1	陶器 皿か	底部~ 体部	②(4.6)	素地 灰白色(2.5Y8/2) 釉 透明	精緻	蛇の目 釉剥ぎ
67	SD1か	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(8.2)	①灰白色(2.5YR8/1) ②灰白色(2.5YR8/2)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる	
68	SD1か	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(6.0)	①②灰白色(10YR8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
69	SD1か	土師器 皿か	底部~ 体部	②(6.3)	①橙色(5YR7/6) ②橙色(7.5YR6/6)	0.1~5mmφの砂粒 少量混ざる	
70	SD1か	土師器 坏	底部	②(7.4)	①②橙色(5YR6/6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
71	SD1か	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①②灰色(N6)	0.1~1mmφの砂粒 やや多く混ざる	口唇刻み 目
72	SD1か	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの砂粒 やや多く混ざる	
73	SD1か	須恵器 坏蓋	天井部 ~体部	つまみ径3.2	①②灰色(N7)	0.5~1mmφの砂粒 極少量混ざる	
74	SD1か	須恵器 坏蓋	天井部	つまみ径2.7	①灰色(N7) ②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 極少量混ざる	
75	SD1か	須恵器 高台付坏身	底部		①②灰色(N5)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺物 番号	遺構	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高		①外面	②内面		
76	SD1か	須恵器 坏身	底部				①②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる	
77	SD1か	須恵器 皿	口縁部 ~底部	③1.45			①灰色(N7) ②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる	
78	SD1か	須恵器 甕	底部				①灰色(N5) ②灰色(5Y6/1)	0.1~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
79	SD1か	須恵器 甕	底部~ 体部	②(11.2)			①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
80	SD1か	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(31.6)			①暗灰色(N3) ②灰色(N6)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
81	SD1か	瓦質土器 羽釜	口縁部				①②灰色(N4)	0.1~2mmφの砂粒 少量混ざる	
82	SD1か	瓦質土器 鍋か	口縁部				①灰色(N4) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
83	SD1か	瓦質土器 足鍋	脚部				①灰白色(7.5YR8/2) ②灰白色(5Y8/1)	0.1~3mmφの粗砂粒 少量混ざる	
84	SD1か	瓦器 椀	底部	②(6.3)			①褐灰色(10YR5/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
85	SD1か	粗陶器 甕	口縁部				①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
87	不明Pit	土師質土器 鍋	口縁部 ~体部				①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~3mmφの粗砂粒 多く混ざる	
88	不明Pit	須恵器 坏身	口縁部				①②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
89	不明Pit	土師器 坏	底部~ 体部	②(6.0)			①②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
90	不明Pit	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(6.6)			①②灰白色(10YR8/2)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
91	不明Pit	土師器 坏	底部~ 体部	②(6.8)			①橙色(7.5YR7/6) ②灰褐色(7.5YR5/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	底部糸切り
92	不明Pit	土師器 甕	口縁部				①浅黄褐色(10YR8/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
93	不明Pit	弥生土器 甕	底部	②(5.6)			①淡赤褐色(2.5YR7/3) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.5~3mmφの粗砂粒 少量混ざる	
94	不明Pit	土師器 甕	口縁部				①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②暗灰色(N3)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
95	不明Pit	土師器 ミニチュア土器	底部	②(3.5)			①②橙色(7.5YR7/6)	0.1~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
96	不明Pit	土師器 甕	口縁部				①にぶい橙色(5YR7/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 多く混ざる	
97	不明Pit	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(7.6)			①②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
98	不明Pit	土師器 坏か	底部	②(7.0)			①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
99	不明Pit	土師器 皿か	底部	②(5.6)			①②橙色(5YR6/6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
100	不明Pit	須恵器 坏身	体部				①灰色(N5) ②灰色(N6)	0.5~2mmφの粗砂粒 極少量混ざる	
101	不明Pit	須恵器 高台付坏身	底部				①②灰色(N5)	0.5~1mmφの砂粒 極少量混ざる	
102	不明Pit	須恵器 坏身	底部	②(10.2)			①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
103	不明Pit	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(5.0)			①灰白色(10YR8/2) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
104	不明Pit	瓦質土器 羽釜	口縁部				①黄灰色(2.5Y6/1) ②暗灰色(N3)	0.1~1.5mmφの砂粒 やや多く混ざる	
105	不明Pit	須恵器	口縁部				①②灰色(N6)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
106	不明Pit	須恵器 高台付坏身	底部				①②灰色(N6)	0.1~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
107	不明Pit	須恵器 甕	底部	②(31.3)			①灰色(7.5Y5/1) ②灰色(N6)	0.5~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
108	不明Pit	土師質土器	口縁部				①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②黄灰色(2.5Y5/1)	0.5~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
110	不明Pit	弥生土器 甕	底部	②(7.8)			①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~2.5mmφの粗砂粒 多く混ざる	
111	不明Pit	弥生土器 甕	底部				①橙色(5YR7/6) ②黒褐色(10YR3/1)	0.5~5mmφの粗砂粒 多量に混ざる	
112	不明Pit	弥生土器 壺	底部	②(4.6)			①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	0.1~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
113	不明Pit	弥生土器 壺	底部	②(6.4)			①橙色(5YR6/6) ②橙色(7.5YR6/6)	0.5~3mmφの粗砂粒 多量に混ざる	
114	不明Pit	弥生土器 壺	底部	②(8.0)			①橙色(2.5YR7/6) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
115	不明Pit	弥生土器 壺	底部	②(6.9)			①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	0.5~4mmφの粗砂粒 多量に混ざる	

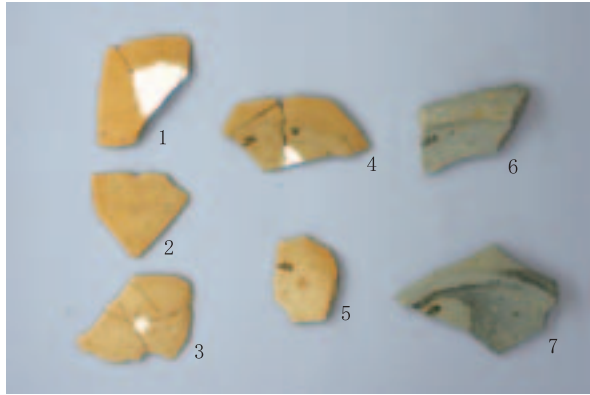
吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺物 番号	遺構	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
116	不明Pit	弥生土器 壺	底部	②(7.0)	①赤褐色(2.5YR5/6) ②にぶい褐色(7.5YR5/3)		0.5~7mmφの粗砂粒 多く混ざる	
117	不明Pit	弥生土器 甕	底部	②(7.0)	①にぶい赤褐色(2.5YR5/4) ②褐灰色(10YR5/1)		0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
118	不明Pit	弥生土器 甕	底部	②(6.0)	①にぶい橙色(5YR7/4) ②褐灰色(5YR5/1)		0.5~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
119	不明Pit	弥生土器 甕	底部	②(5.2)	①灰黄褐色(10YR6/2)		0.5~4mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
120	不明Pit	弥生土器 壺	頸部		①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②浅黄褐色(10YR8/3)		0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	貝殻施文か
121	不明Pit	弥生土器	体部		①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)		0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
122	不明Pit	弥生土器 甕	口縁部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)		0.5~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
123	不明Pit	弥生土器 鉢か	口縁部		①淡黄色(2.5Y8/3) ②灰色(N5)		0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
124	表採	須恵器 高台付坏身	底部		①②灰白色(N7)		0.1~2mmφの砂粒 やや多く混ざる	
125	表採	須恵器 坏身	底部	②(6.5)	①灰色(N6) ②灰白色(N7)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
126	表採	瓦質土器 足鍋	脚部		①灰白色(N7)		0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
127	不明遺構	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①②灰白色(10Y8/1)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
128	不明遺構	土師器 高台付坏	底部 ~体部	②(6.1)	①灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
129	不明遺構	弥生土器 高坏	坏部 ~脚部		①②橙色(5YR7/6)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
130	不明遺構	青磁 碗	口縁部		素地 灰白色(7.5Y7/1) 釉 灰オリーブ色 (7.5Y5/2)	精緻		鎬蓮華文
131	不明遺構	青磁 碗か	口縁部		素地 灰白色(7.5Y7/1) 釉 灰オリーブ色 (7.5Y5/3)	精緻		
132	不明	須恵器 高台付坏身	底部		①灰色(N6) ②灰白色(N7)		0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
133	不明	須恵器 高台付坏身	底部	②(7.8)	①②灰色(N5)		0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
134	不明	須恵器 坏身	底部	②(12.0)	①灰色(N5) ②灰色(N6)		0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	ヘラ記号
135	不明	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①灰色(N5)		0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
136	不明	須恵器 甕	口縁部		①灰色(N7) ②灰色(N6)		0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
137	不明	土師器 坏	底部 ~体部	②(6.8)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)		0.1~1.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
138	不明	土師器 台付皿	底部	②(7.0)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)		0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
139	不明	瓦質土器 鉢か	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰色(2.5Y8/1)		0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
140	不明	白磁 碗か	底部		素地 灰白色(5Y7/1) 釉 灰白色(7.5Y7/1)	精緻		
141	不明	陶器 碗か	底部	②4.4	素地 にぶい黄色(2.5Y6/3) 釉 暗オリーブ灰色	精緻		
142	不明	磁器 皿か	口縁部		素地 灰白色(5Y8/1) 釉 灰白色(7.5Y8/1)	精緻		
143	表採	瓦質土器 足鍋	脚部		①橙色(2.5YR6/6)		0.1~1.5mmφの砂粒 多く混ざる	

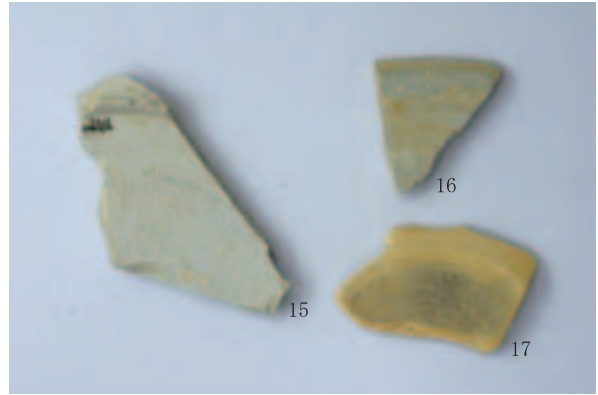
表11 出土遺物(石器・土製品)観察表

法量()は復元値

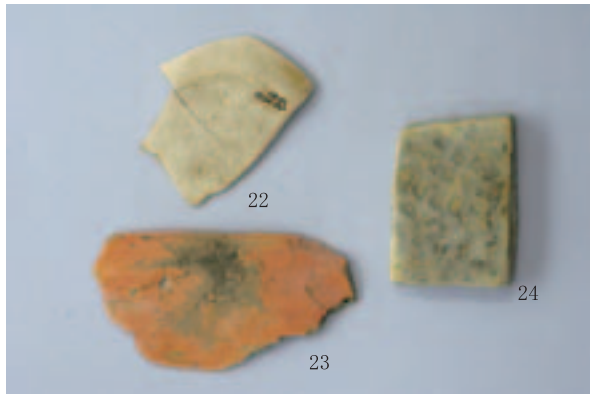
遺物 番号	遺構	器種	法量(cm)	重量(g)	材質	備考
25	SP87	石鍋	残高1.5 底部厚1.0	24.86	滑石	底部片・外面煤
86	SD1か	石鍋	残長9.05 最大幅3.8 最大厚1.4	71.79	滑石	体部片・外面煤
109	不明Pit	円盤形土製品	最大径5.95 最大厚1.3	43.12	粘土	



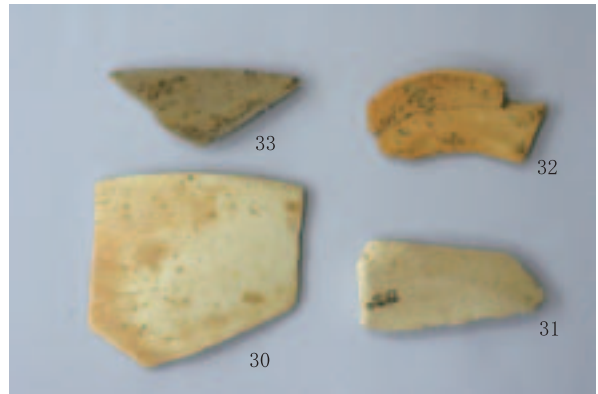
SP8



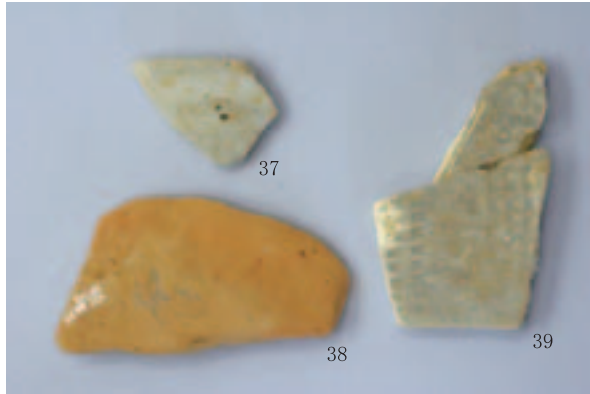
SP68



SP87



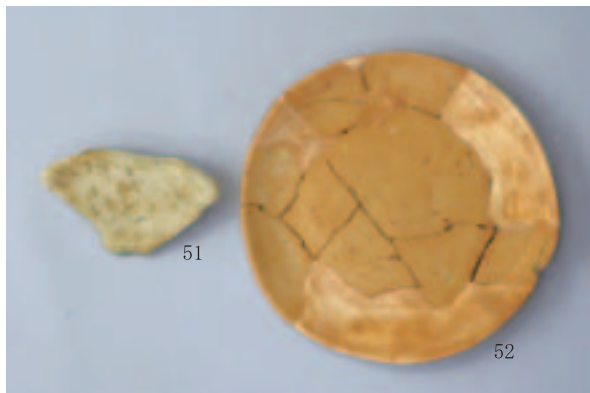
SP100



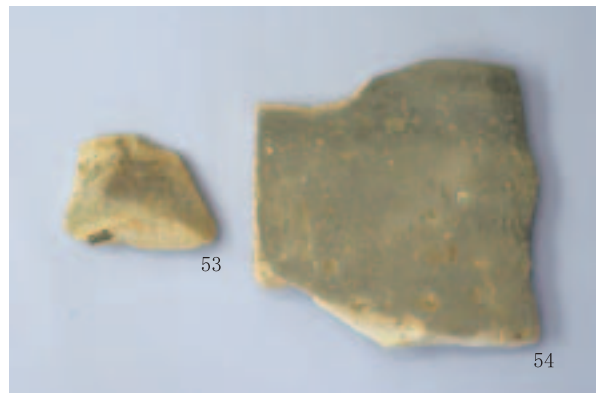
SP108



SP246 (試掘 SP153)



SP167



SP186

写真 92 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物①

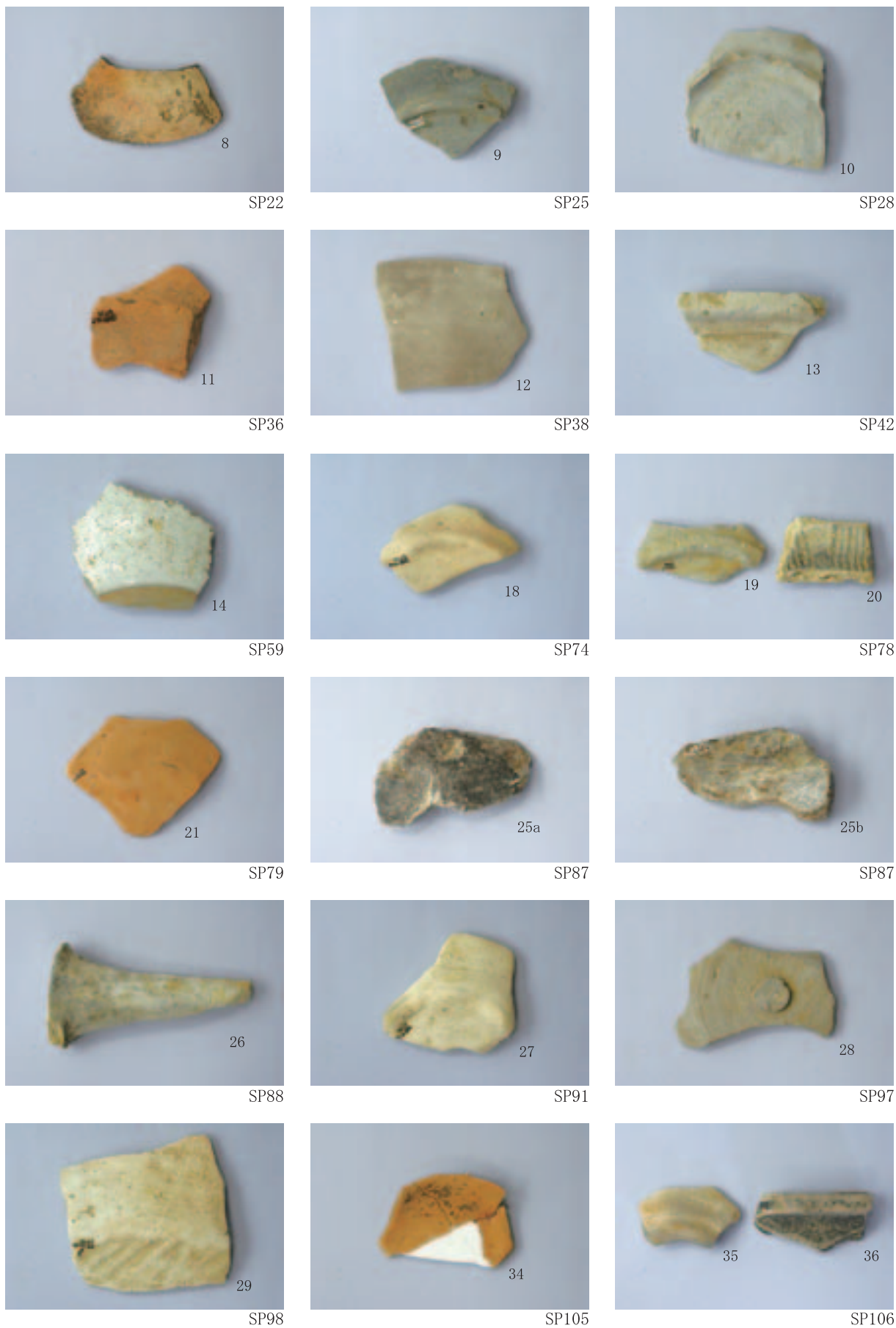
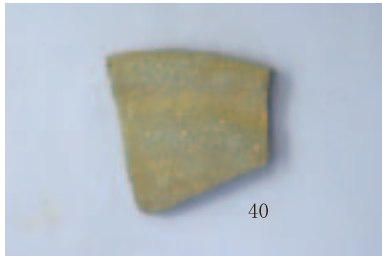
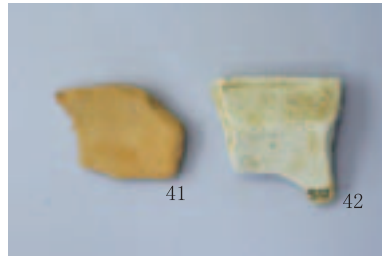


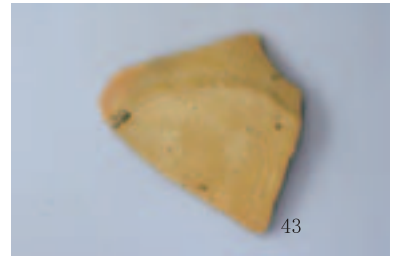
写真 93 第II地区第1調査区出土遺物②



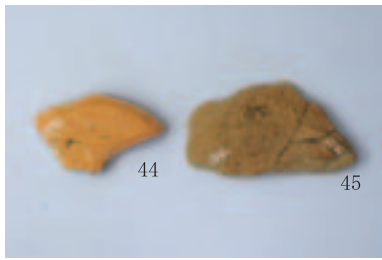
SP110



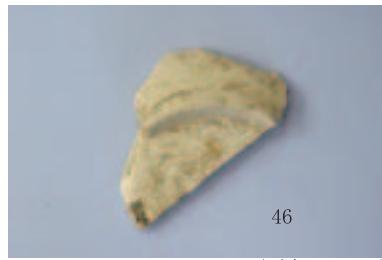
SP122



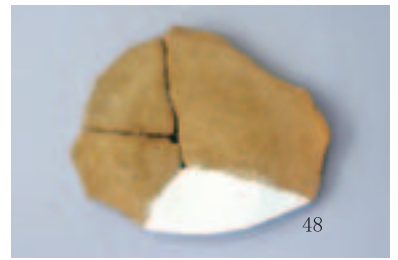
SP136



SP142



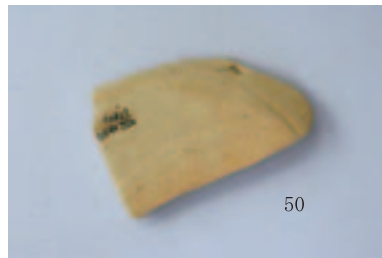
SP250 (試掘 SP148)



SP156



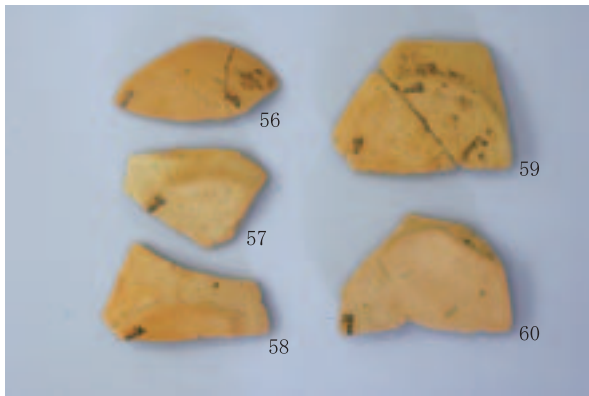
SP165



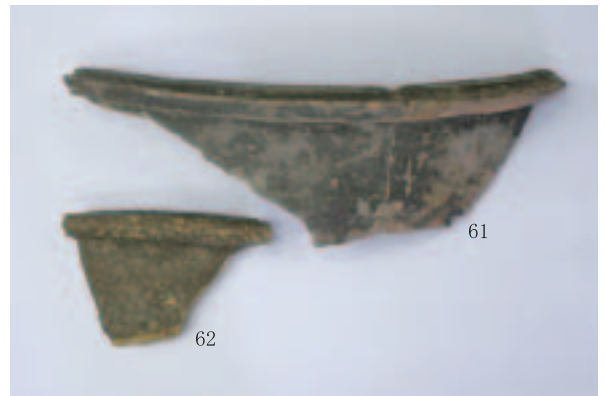
SP166



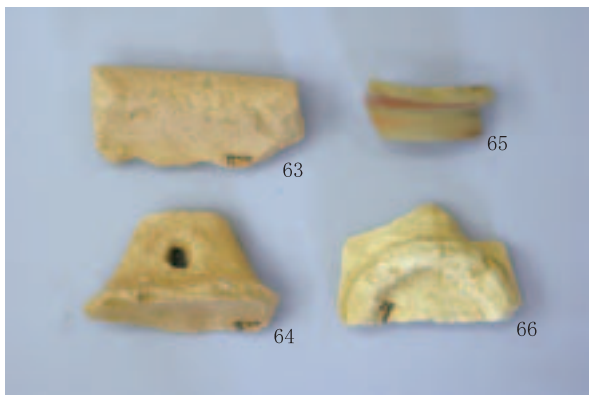
SP203



SD1

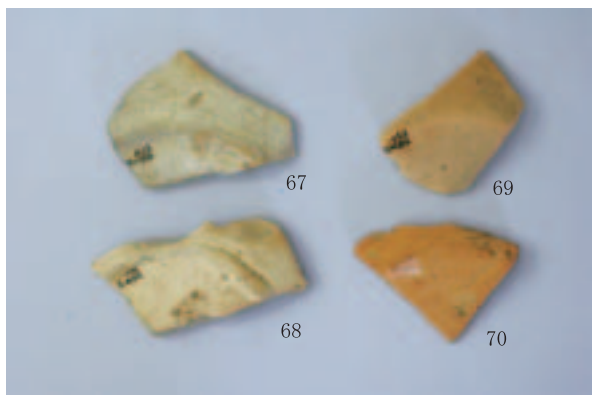


SD1



SD1

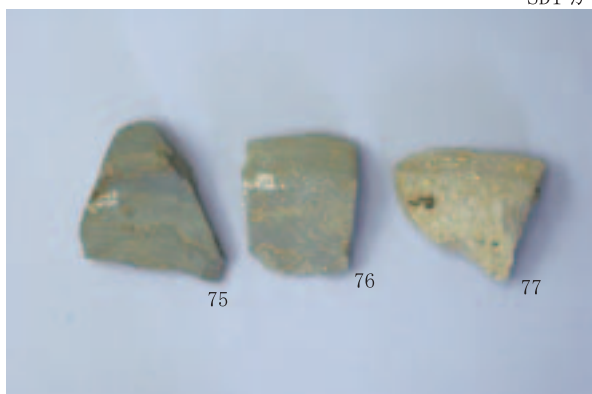
写真 94 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物③



SD1 か



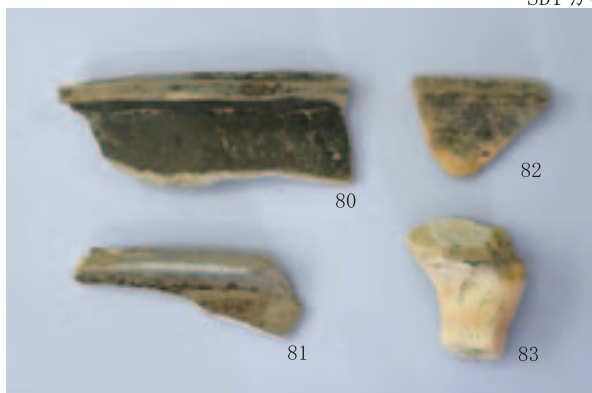
SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か

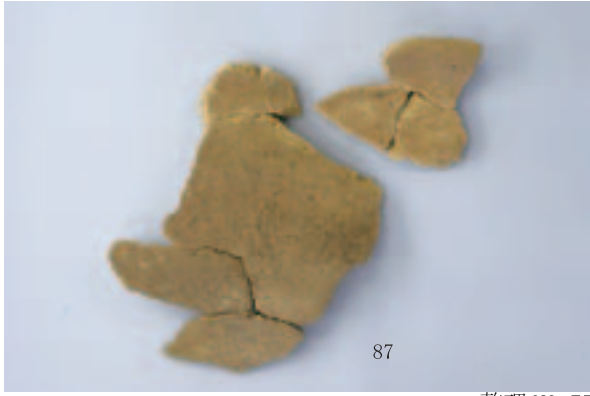


SD1 か

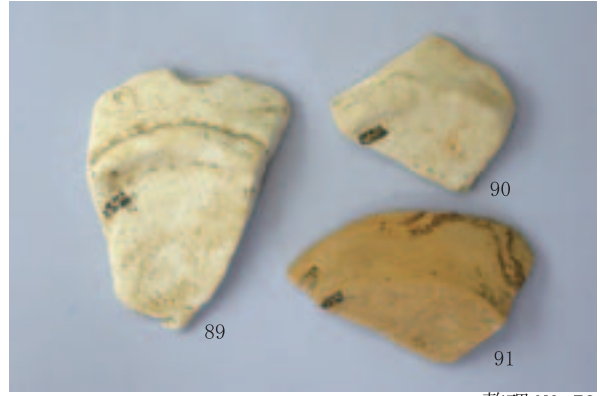


SD1 か

写真 95 第II地区第1調査区出土遺物④



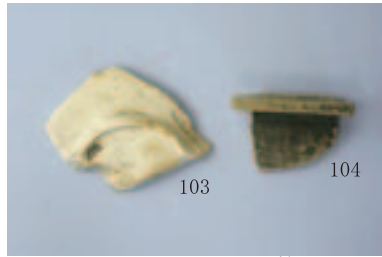
整理 NO. 75



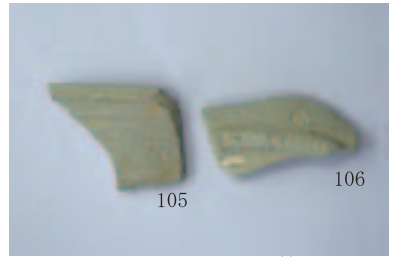
整理 NO. 78



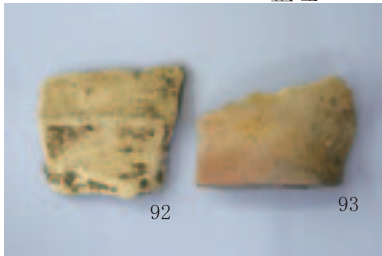
整理 NO. 76



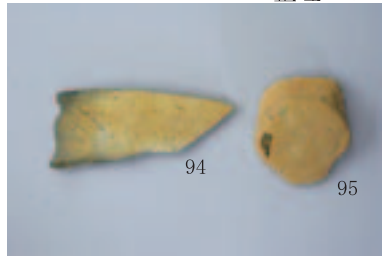
整理 NO. 81



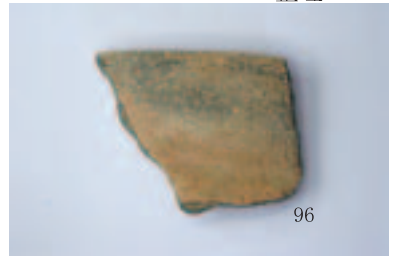
整理 NO. 82



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 85



整理 NO. 86

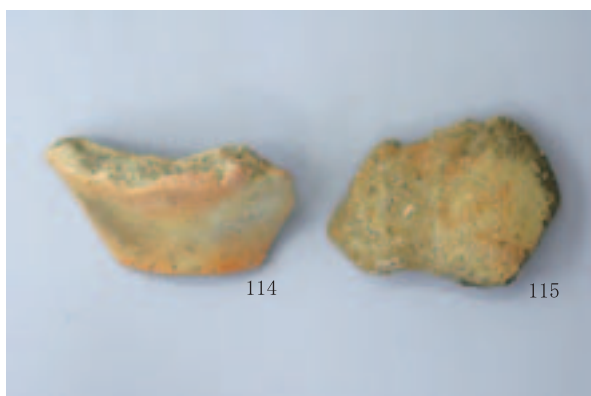
写真 96 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑤



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



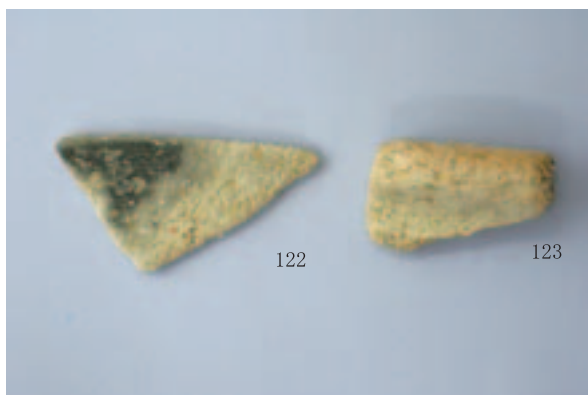
整理 NO. 83



整理 NO. 83

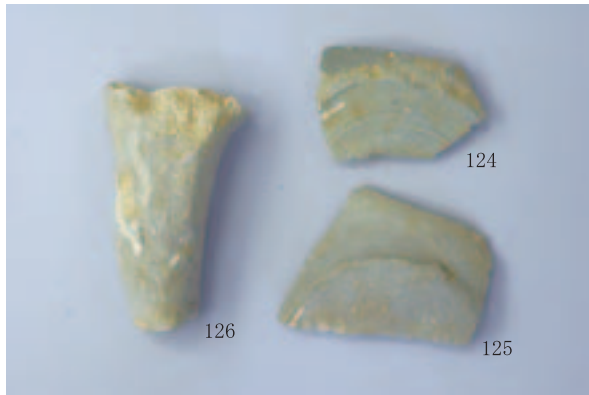


整理 NO. 83・84

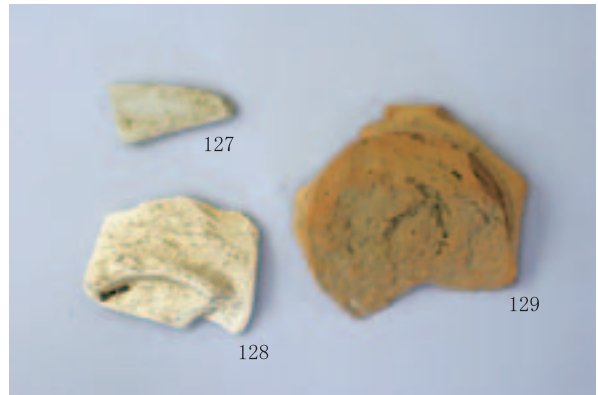


整理 NO. 83

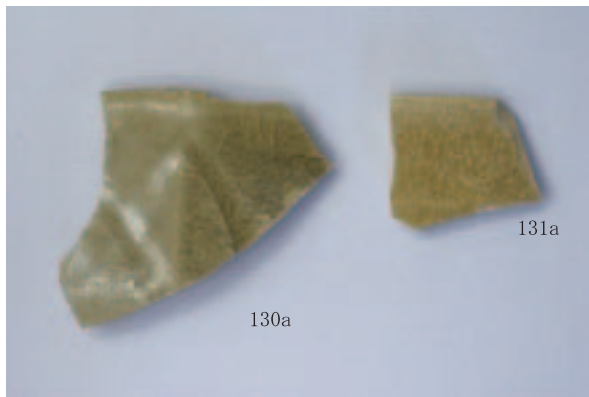
写真 97 第II地区第1調査区出土遺物⑥



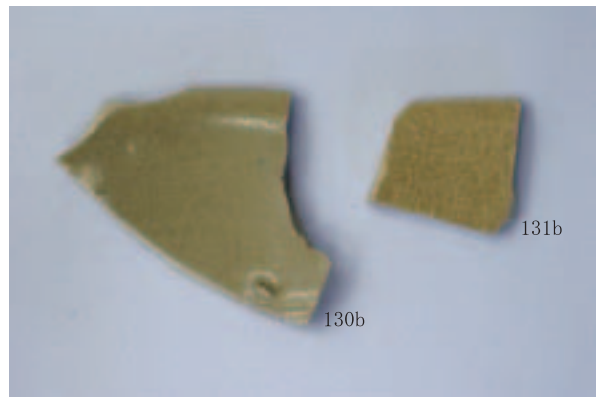
整理 NO. 88



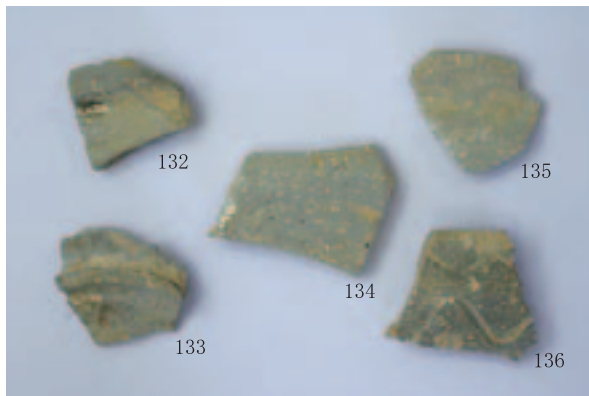
整理 NO. 89



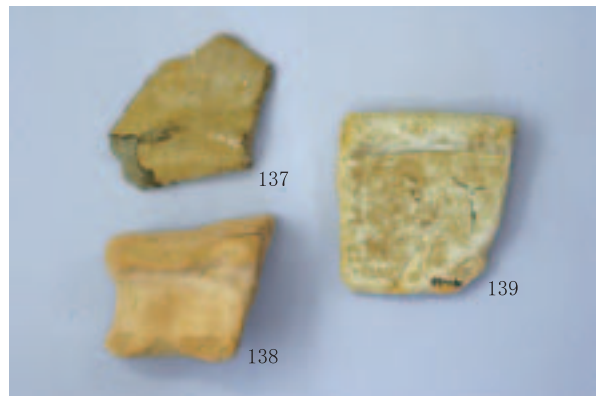
整理 NO. 89



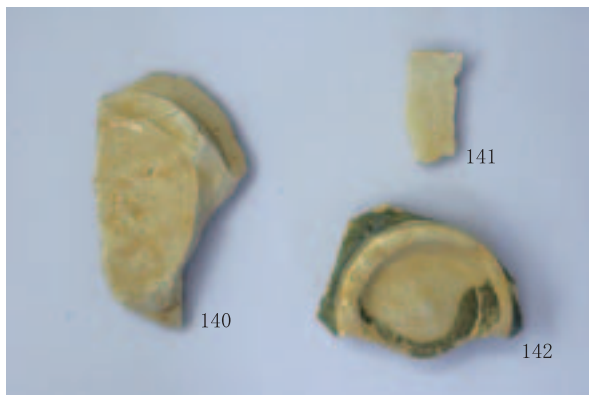
整理 NO. 89



整理 NO. 90



整理 NO. 90



整理 NO. 90



整理 NO. 91

写真 98 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑦

4. 第2調査区の成果

a. 立地

第2調査区は現在の動物医療センター建物設営に伴う調査区である。第1調査区の北東約30mに位置するが、現況標高は第1調査区よりも約0.5m低い。大学移転前に撮影された航空写真を見ると、旧地形は第1調査区が立地する支脈丘陵の北東に沿う谷部と推定される。

b. 遺構(図64)

現存する第2調査区の記録は縮尺1/50の平板測量図1枚であり、写真類も発見されていない。この測量図には黒色粘土層(遺物包含層)の分布域が示されているが、その後の調査記録及び出土遺物も残されていないことから、調査は包含層上面を検出するに止まったようである。従ってそれ以上の報告も行えないが、当館が近年実施した第Ⅱ地区周辺の調査成果により、第2調査区の東部に分布するこの黒色粘土層に関しては重大な問題を含んでいると考えられるため、以下に近年の調査成果を記す。

平成14年度に実施された農学部校舎他改修(解剖実習棟校舎新営)に伴う発掘調査区^{註8}は、第2調査区の北西約30m地点に位置する。この調査区の南西部において、南東から北西方向に流れる河川跡の右肩部が検出されている。この河川埋土からは、平安時代を中心とする土器とともに「官」の墨書がなされた須恵器坏蓋が出土しており、緑釉陶器や六連式製塩土器など一般集落には通常出土しない土器類も出土している。更に鞆羽口や鉈尾の未製品も出土していることから、調査地周辺には鑄造に関連する官衙施設が存在した可能性が高いと考えられる。また、これと直接関連するかは不明であるが、河川埋土下から総柱建物の可能性がある2棟の掘立柱建物跡が検出されている。この2棟は現在の座標軸に沿う形で整然と南北に並んでおり、その性格が注目されている。

平成12年度に実施された総合研究棟新営に伴う発掘調査区^{註9}は、平成14年調査区の更に約20m北西に位置する。この調査においても南東から北西に流れる河川跡の下流部分が検出されており、埋土からは平安時代の土器とともに円面硯、製塩土器などが出土している。遺物の出土は河川の南東(上流)部に集中していたそうであり、調査担当者は動物医療センター建物周辺に同時期の遺構群が存在したものと推定している。

以上の調査成果から見ると、第2調査区において検出された黒色粘土層は、平安時代の遺物を包含

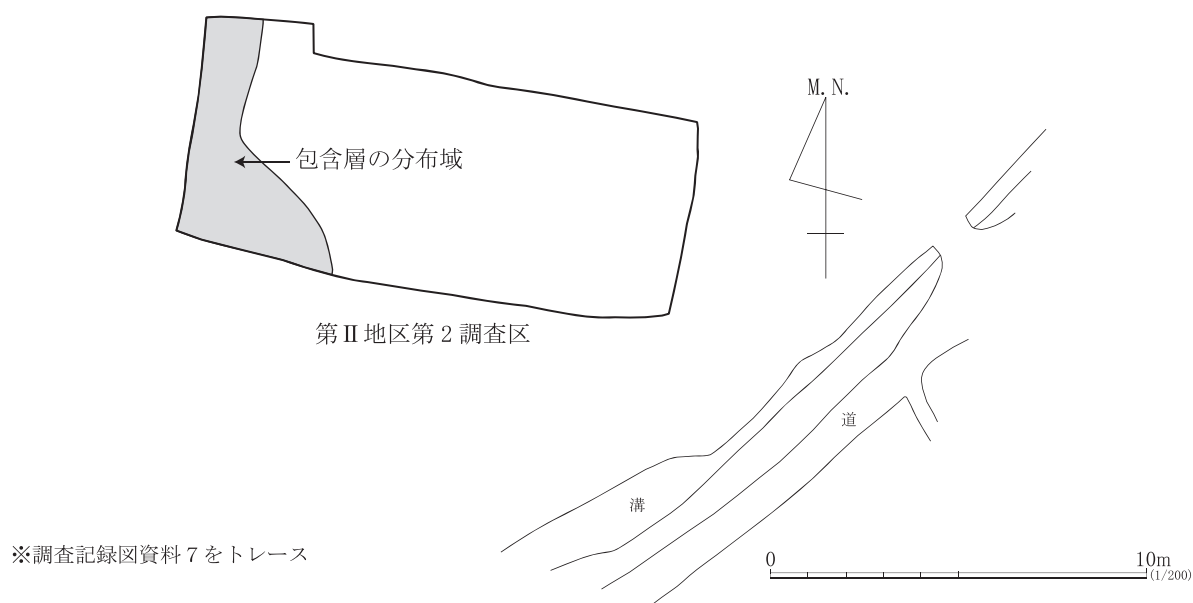


図65 吉田遺跡第Ⅱ地区第2調査区平面図

する河川埋土である可能性が極めて高い。他調査区での河川埋土出土資料は、官衙の存在を強く示唆する遺物群であり、かつ埋土下に古代の建物跡と推定される遺構群が遺存していたことを考えると、山口大学の遺跡調査体制が整っていない当時のこととは言え、慚愧に堪えない調査結果と言える。

4. まとめ

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査は昭和41年8月より実施された。山口大学としては第Ⅰ地区A区に続く2度目の発掘調査である。遺跡の調査報告としては多くの不備を残すが、以下にまとめを記す。

第Ⅱ地区第1調査区は、遺跡の南東に聳える今山から北西に向かい派生する低丘陵上に位置する。検出された遺構には、丘陵軸に平行する溝1条と柱穴と推定される278基のピット群である。現存する出土遺物から見ると、遺跡の中心時期は8世紀後半から9世紀代を中心とする古代と、13世紀から14世紀を中心とする中世と見なされる。特に後者については吉田遺跡では遺物相として確認されているものの集落等の確認がなされていない時期に当たるため注目される。また相当数の弥生土器資料も存在することから、従来遺跡の低地部に集中して発見されていた当該期の生活痕跡が丘陵部まで広がることを予測させる。

第2調査区は、第1調査区が位置する丘陵の北東に沿う谷筋にあたる。調査は包含層の検出に止まったようである。ただしこの包含層は、近年実施された周辺地での発掘調査により、古代の官衙関連遺物を包含する河川埋土である可能性が極めて高い。

第1調査区は現在本学農学部が管轄する飼料園となっており、調査後埋め戻された遺跡はそのままの状態では保存されているはずである。調査記録には様々な不備が見られるため、この地で開発等遺跡破壊に繋がる行為がなされる場合には、再発掘調査が必須であることは言を待たない。

最後に、本稿を成すにあたり、第Ⅱ地区の調査に本学の学生として参加していた添田建治郎氏（現：山口大学人文学部教授）に当時の思い出も含めて調査に関する様々な情報をご教示いただいた。文末ではあるが感謝の意を表す。

[註]

- 1) 石川卓美(1990)『〈増補〉平川文化散歩』,山口
- 2) 豆谷和之(1993)「付篇Ⅱ 第1章 吉田遺跡第Ⅰ地区A区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅠ』,山口
- 3) ガリ版刷りの冊子であり、正確な作成年月日は不明。統合移転が完了した1973年頃作成か。
- 4) 平成19年1月1日に農学部附属家畜病院から改称。
- 5) 前掲註3報告。
- 6) 写真が撮影されたのは10月後半と推定され、遺構の図化作業と遺物の取り上げは11月以降に行われているため、図に記された遺構番号と遺物袋に注記された遺構番号が一致する可能性が高いと思われるが、これも推定でしかない。
- 7) 岩崎仁志(1999)「足鍋再考」,財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)『山口県埋蔵文化財センター年報—平成10年度— 陶埴 第12号』,山口
- 8) a: 田畑直彦(2002)「山口大学構内吉田遺跡—農学部校舎改修(解剖実習棟新営)に伴う発掘調査略報—」,山口考古学会(編)『山口考古 第22号』,山口
b: 田畑直彦(2004)「第8章6. 平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅥ・XⅦ』,山口
- 9) 田畑直彦(2004)「第8章4. 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅥ・XⅦ』,山口